

令和 8 年度 第 1 回横浜市動物園等指定管理者選定評価委員会

《日程》令和 8 年 6 月 3 日(水) 15:10～

《会場》市庁舎

— 次第 —

開会
あいさつ
委員紹介

議題

- 1 横浜市動物園等指定管理者選定評価委員会の委員長の選出
- 2 令和 7 年度第 5 回横浜市動物園等指定管理者選定評価委員会会議録の確認
- 3 会議の公開について

報告

- 1 事業評価の実施方法について
- 2 令和 8 年度横浜市動物園等指定管理者選定評価委員会開催日程
- 3 その他

- 資料 1 令和 7 年度第 5 回横浜市動物園等指定管理者選定評価委員会会議録案
- 資料 2 事業評価の実施方法について
- 資料 3 令和 8 年度横浜市動物園等指定管理者選定評価委員会開催日程案
- 資料 4 3 つの Zoo みらいプロジェクトについて
- 参考資料 令和 8 年度管理運営実施計画書（データ）
横浜市動物園等の指定管理者の選定及び評価に関する要綱（データ）
横浜市動物園等指定管理者選定評価委員会運営要綱（データ）
横浜市動物園等指定管理者選定評価委員会委員名簿

令和 7 年度 第 5 回横浜市動物園等指定管理者選定評価委員会 会議録	
日時	令和 8 年 3 月 27 日（金）13：30～16：00
開催場所	市庁舎 17F 会議室
出席者	（委員）小宮輝之委員長、間曾さちこ委員、佐渡友陽一委員、藤崎晴彦委員、儀賀良之委員
開催形態	非公開
議 題	1 令和 7 年度第 4 回横浜市動物園等指定管理者選定評価委員会会議録 2 令和 6 年度事業評価報告書について 3 令和 8 年度横浜市動物園等指定管理者選定評価委員会日程案について
報 告	1 よこはま動物園ホッキョクグマの死亡について 2 その他
議事	【議題 1】 令和 7 年度第 4 回横浜市動物園等指定管理者選定評価委員会会議録 異議なし 確定 【議題 2】 令和 6 年度事業評価報告書について 異議なし 確定 【議題 3】 令和 8 年度横浜市動物園等指定管理者選定評価委員会日程案について ・（事務局）現時点案のため、今後変更する可能性もあることを了承いただきたい。 異議なし 了承 【報告 1】 よこはま動物園ホッキョクグマの死亡について ・今まで健康状態に問題はなかったのか。 →（指定管理者）日々のトレーニングにより無麻酔下で採血できるようになっていたため、事前に血液検査により健康状態を把握しており、十分な健康状態だったと考えている。 ・ゴーゴは社会的にかなり有名で、大阪の民間事業者から天王寺動物園が寄附いただいたもので、怒りを感じている方も多いと聞いている。 そういった方々に技術的な弁解をしても、うまく伝わらないのではないかとと思うが、どうか。 →（事務局）広聴等でも悲しみの声や様々なご意見が寄せられている。現時点で知り得ていることを包み隠さず公表すること、しっかり検証して、再発防止につなげることが、一番の要望だと受け止めている。今後、病理検査の結果なども、しっかり情報公開していく必要があると考えている。

	繁殖が妥当なのか、動物福祉に反していたのではないかという声もあり、丁寧に説明しなければならないと考えている。動物園の使命として、繁殖計画に則った繁殖と、根底にある動物福祉へ取組、これらをしっかり両立させなければならないと感じており、本市と指定管理者で、一緒に取り組んでいくべきだと考えている。 こういった点について、委員の皆様の知見の中で、ご指導をいただきたい。 ・ ゴーゴは繁殖実績もあり、とても有名で人気のある個体。死亡の一報を知った直後から、X等には多くの情報が投稿されており、かなり攻撃的な投稿も多かった。 この年齢で移動が適切だったのか、JAZA 生物多様性委員会と十分に検証していただきたい。投稿には真偽不明のような情報や園長へのかなり攻撃的な投稿も多く見られ、一人の人の人生を奪うくらいの攻撃的な投稿もあり、施設の責任者だからといっても、そこまで言われるのか、と感じた。 ・ 国内では、ホッキョクグマの麻酔下での採精は何例くらいあるのか？ →（指定管理者）国内の飼育下のホッキョクグマ 30 頭ぐらいおり、繁殖に適するオスのうち採精できていないオスはゴーゴだけだったと聞いている。 ・ その中では、このような事態に至ったのは初めてで、それがゴーゴだったということは非常に不幸なことだった。 ・ 動物に麻酔をかけて処置をする際に、リスクがゼロではないことは仕方のないこと。博物館経営論的な視点では、コレクションマネジメント、つまり、生きている動物をどう扱うかという技術的なことがベースである。この点に関しては、指定管理者の専門性が高く、専門家として当然、技術的に可能な限りリスクを減らすことはやっているし、それは信頼するしかなく、今後も技術をできる限り高めることはお願いしたい。 ・ 今回の問題は、そうした技術的な側面のことではなく、コミュニケーションマネジメントであり、市民感情をどう取り扱うか、ということだと考える。端的に言うと、「指定管理者は、動物を扱う技術だけでなく、横浜市の動物園において動物を扱うにふさわしい徳、倫理を備えた団体である」という信頼感を得られるかということ。そこを踏まえて、どのように市民感情と向き合って、信頼感を担保しうるかを考え、報道発表をしてほしい。 ・ リスクマネジメントにおいて、記者会見のタイミング、内容というのは非常に重要な問題。今回、記者会見をしていないが、横浜市としてどう考え、いつ「しない」と決めたのか。 →（事務局）一報を受けた時点でのリスクマネジメントが十分ではなかったと、今のご指摘を聞いて、改めて感じた。市役所の感覚としては、こういった事案や事故報告を行う場合には、記者会見をするのではなく、事実関係を正確にお伝えするという視点になる。今回もそういった視点で、この事例を取り扱った、というのが経緯。今後、報道発表含め、みなさまに事実をしっかりお伝えするのに適した手法を検討していきたい。
--	--

	• 一般的に、記者会見は情報が全て出そろってから1回でやるのがよく、情報が揃うまでは待つという段階があってもよい、という考え方がある。そういう意味では、今回の第2報、第3報を段階的に出したことが正解だったのかを検証し、同じやり方で第4報を出すことが正解なのかをきちんと検討すべき。 コミュニケーションマネジメントとは、感情と向き合うことであるので、科学的に物事と向き合い事実を包み隠さず出すだけでは足りない。これをきちんと認識したうえで、記者会見をやるのか、別の手段とするのかを、きちんと検討すべき。 →（事務局）第2報には、指定管理者とも調整し、園長からのメッセージを掲載した。今後の第4報に向けて、今いただいた意見をもとに、どういうコミュニケーションが良いのか、しっかりと考えていきたい。 • 今回、ゴーゴが万が一死亡した場合に、情報発信をどうするかについて、事前に決めていなかった、という理解でよい。 →（事務局）決めていなかった。 • 動物の移動は、死のリスクがゼロになることはない。だから、万が一、死んでしまったときの対応を念頭に置いたうえで動くべきだと思う。それを全く想定せずに、事後的に対応せざるを得ない状況を作ったことは、リスクマネジメントの観点から、不適切だった、と言わざるを得ない。 • 人気のある個体だったので、ショックを受けている人も多いだろうし、何も知らずに発表される情報だけ見ると、単なる事故ではなく、不適切な取り扱いがあったのでは、と見えてしまう。事故の経緯は技術的な面からもきちんとした説明が必要だが、だからこそ誤解を招くことも想定されるので、一般の方に理解してもらうのは難しいということも前提に、どのように受け止められるかを想像しながら説明しないと誤解をまねくだろうと思う。 • 情報管理については事前の対応がしっかりできていれば、今こういう状態にはなっていないと思う。企業などでも、初手がどうだったかということで、その後の印象、社会的な評価が大きく変わる。 一般市民からすると、突然ゴーゴが死亡して、その後、段階的に発表資料が出てきて、その後写真展となると、こちらの表情が伝わらないので、「関係者は本当に悲しんでいるのか」、「血の通ったやりとりじゃない」という印象をおそらく受け、納得いかない感情が残ってしまうのではないかと。生き物を扱うところでは、感情で動く部分があるので、通常の事故以上に、感情面に対する対応が必要ではないか。 この後の対応では、起きたことと、その対応、原因というより、それに対して、自分たちがどう考えてきたのか、ということをもう少し伝わりやすくしてほしい。 • 動物に限らず、備品・施設などで、事故があった場合などの、危機管理、初動や説明の手法などについての市のマニュアルはあるのか。
--	--

→（事務局）例えば公園でも事故があれば、管理瑕疵の有無に関わらず、記者発表をする。まずは事実関係をお知らせする。市の責任の有無が明確に伝えられる場合は、明確に伝える。例えば、警察の捜査中や被害者のプライバシーに関することがある場合には、報道のマニュアルに沿って発表の対応をしている。今回も、そうした事例を参考にしながらの対応だったが、人気のある動物の死亡ということで、市のマニュアルでは合わない部分があったということだと思う。事前のマネジメント不足はあるかもしれないが、指定管理者と連携を取りながら、一緒に対応していくことはできたと考えているし、今も対応は続いているので、今日いただいた意見も含めて、しっかり対応を考えていきたい。

- ・役所の危機管理はすぐに再発防止に行き過ぎ、ゼロリスクにしようとするが、動物を絶対に死なせない、ということはある程度得ないので、リスクをいかに保有するかということ。法的な責任を問われているのではなく、動物園の当事者の悲しみ、心が伝わる対応が求められている可能性が高い。報道が分かりやすい言葉で伝えてくれるので、報道関係者が納得できる場を作れるかも大切。通常の役所の危機管理とは少し違う、そうした視点で、コミュニケーションマネジメントを考えることが必要なのではと思う。

→（事務局）役所としては、動物に対する責任がある以上、「動物の死亡リスクはゼロにならない」「我々も悲しい」と言うことが、逆に言い訳に聞こえてしまうと考えていた。その中で、正確に事実関係を伝えるというのが、最初のコミュニケーションのスタートだった。今回新たな気づきをいただいたので、コミュニケーションとしてどういう手段が取れるかを、指定管理者と相談して、対応していきたい。

- ・今回の事案に限らず、動物を扱う以上、終末期の安楽殺のように、何らかの理由で、動物を死に至らしめなくてはならないこともある。今回の経験を踏まえ、そういった場合も含めて、きちんとコミュニケーションできるノウハウを、これから磨いていかなければいけない。
- ・この件は、横浜市民に限らず、全国的に問題になっていて、横浜の動物園の評判を落とすことにもつながる。横浜市民だけに説明すればよい、4報を出せばよい、というのではなく、もう少し真剣に対応した方がいいかなと思う。

【報告2】

その他

（シシオザル舎内逸走について指定管理者から説明）

- ・「OJTや研修をしっかりとやっています」とよく聞くと、動物園業界に長くいると、研修が盛んなところほど実は普段の管理がしっかりできていない証拠のように感じることもある。やはり自分の目と手で扉の確認をするということに尽きる。自動的に締まる仕組み、のような対策はかえっていけない。なかなか解決策が難しいのは事実だが、ずいぶん続いてしまっている。

	・今回の件では、すぐ後に、別のところでガイドの対応予定があったとあり、一般的に、イレギュラーなことが起こったり、直後に別の予定があったりすると、注意が散漫になり得る。人員配置や業務の組み立てにあまり余裕がないのかなという印象もあるが、もう少し工夫できないのか。 →（指定管理者）今回は、ガイドの予定があったことと、動物が小競り合いをしたという状況もあって、少し焦った部分があったと思う。そういう場合にはガイドに間に合わなくても、まずは安全に動物を収容する、目の前の動物のリスクに対応することが最優先であり、周囲に連絡して対応する、ということを改めて周知した。あわせて、基本的な飼育作業の徹底を、改めて注意喚起した。 ・情報が整理されてこういう場に報告されていることは、リスクマネジメント上、ヒヤリ・ハットの共有という意味で重要であり、その点は評価したい。 ヒヤリ・ハットの共有の目的は重大インシデントを防ぐことだが、今回の事案は、最悪の場合こういった重大インシデントになり得たのかについては、どう評価しているか。 →（指定管理者）最悪の事態としては、構造的につながっている隣の獣舎に、別の職員が気づかずに出入りして、動物が舎外に出てしまう可能性や、その職員が負傷する可能性があった。シシオザルは大きくない動物なので今回は被害はなかったが、別の動物であれば今回の対応では済まないと思うので、重大な事故だという認識。 ・今回は、職員の重篤な負傷・死亡といった重大インシデントには至らなかった、ヒヤリ・ハットの「ハット」だった。それをきちんと共有して、対応をしており、比較的きちんとリスクマネジメントされている事案ではあるが、再発防止に努めてほしい。 ・今回の事案を受け、隣の獣舎との間に扉を付ける対応をしたとのことだが、動物逸走時に、まず連絡をすることの徹底が必要。逸走を知らずに別の職員が作業することで、園内逸走、下手すると園外逸走という重大インシデントが起こりうる。 ・現場で何か問題が起きたときに、他の職員に連絡する手段や仕組みはあるのか。 →（指定管理者）職員が無線機を所持しており、無線機についている緊急時用のボタンも状況によっては使うことになっている。 ・今回、担当職員はなぜ即座に連絡しないで、自分で対処してしまったのか、は重要な点だと思う。「対応する前に、まず連絡」というマインドセット的な話だが、そこについて、何か聞いているか。 →（指定管理者）ガイドの時間があって焦っていたのと、飼育の担当者だったので、ある程度安全な距離感を把握していたこともあり、対処可能と思い込んでしまった。 ・「問題に気付いたら、まず報告」ということの普段からの徹底はどの業務でも共通だと思う。
--	---

配布資料	資料 1 令和 7 年度第 4 回横浜市動物園等指定管理者選定評価委員会会議録（案） 資料 2 令和 6 年度指定管理者事業評価報告書（案） 資料 3 令和 8 年度横浜市動物園等指定管理者選定評価委員会開催日程案 資料 4 ホッキョクグマ「ゴーゴ」の死亡について（第 1 報）～（第 3 報）

事業評価の実施方法について

1【現在の評価方法】

本市の動物園指定管理者に対する評価は、本市職員による評価と、選定評価委員による評価の合計点で、「S」「A」「B」「C」の4段階評価としています。

職員による評価は、3動物園と動物園調整課の4部署を対象に行い、その評価項目は、仕様書にそった業務実績の評価と、指定管理者が提出した年度実施計画書の目標の達成度に対する評価と指定管理者が取り組みを自由に記載する項目の評価の合計点で評価します。

そこに、選定評価委員5名が5項目について、5点満点持ち点25点で評価し、その合計点と本市職員による評価の合計点を合計して、SABCの4段階で事業全体の評価とします。

2【評価方法、配点基準の課題】

① 指定管理期間が10年間と長期に及ぶため、仕様書や評価基準が時流にそった柔軟な対応が困難。

昨年までの10年の指定管理期間においても、この間に動物福祉の考え方が浸透し、10年前に比較しても重要度が増加したことなど、10年もの長期間では公共施設・博物館施設・公園施設としての動物園の在り方を取り巻く状況が変化するため、都度柔軟に対応する必要がある。

② PDCA サイクルを意識した評価になっていない。

この評価方法の課題は、各項目の結果のみを報告させているため、目標に至らない結果であっても、途中過程で得た成果、次年度に向けた原因究明や改善策などに取り組んだ行為や至らなかったことが事業者の責によらなかった場合の評価がしにくい。

③ 配点基準が継続の重要性などを評価しにくい

現状の配点基準（資料2、6ページ）は、0～3点の4段階です。最高配点の3点の配点基準は「仕様書等で求める水準を上回る工夫や実績、大幅な改善等を行った」であり、日報やカルテの管理など日常的な管理業務では、大幅な改善は想定しにくく、当該項目だと評価しにくい。

④ 公園管理分野の評価割合が小さい

野毛山動物園と金沢動物園は、公開している公園部分も指定管理エリアに含まれている。野毛山動物園は、動物園・園地全体で9.1ha、動物園部分は3.3ha。金沢自然公園は、総面積約58ha中、動物園部分は約13haとなっている。横浜市としては、市民の福祉向上のために供されている公共施設としての公園が、安全・快適に管理されているか、また都市型の野毛山公園と郊外型の金沢自然公園それぞれの特色を発揮しているかなどを適切に評価する必要がある。しかし、現状では公園の管理状況の評価項目が少ない。

⑤ 自主事業も含めた収支構造の評価がされていない。

収益事業の評価は商品開発などが中心となり、収益構造、収支の結果などが評価されていない。

⑥ 委員が6名になったことによる配点基準の改善が必要。

3【今後の検討方法】

検討方法ですが、今後、第3回委員会開催（11月頃予定）までのメールやリモート打合せで委員の皆様とも意見交換をしながら、第3回委員会で改善の概要をお示しし、第4回委員会（1月中旬を予定）で最終案をお示しして年度内に決定していきたいと考えています。

横浜市立動物園等指定管理者 令和6年度事業評価シート(令和7年度実施)

指 定 管 理 者 名	公益財団法人 横浜市緑の協会
指 定 期 間	平成28年4月1日 ～ 令和8年3月31日

1 仕様書等の基本項目の評価

(1)ーア よこはま動物園(ズーラシア)

仕 様 書 の 項 目	仕 様 書 項 目	事 業 評 価 確 認 項 目	配 点	指 定 管 理 者	採 点 欄	本 市 採 点 欄		※仕様書参照
				自己評価		調 査 員	備 考	
1	来園者サービス業務	①全般、開園時間及び休園日、総合案内	3	3	【新規】夏期の酷暑、冬期閑散期の顧客満足施策として、イベントやグッズ、涼しい場所や暖まれる場所などを紹介する「ひんやりマップ」「冬のイベント・お役立ち情報」を作成し配架した。約800/800枚利用。HPIにも掲載しアクセス数8,000件以上であった。	3		3(1)、(2)
2	動物飼育管理業務	①飼料調達・調理・給餌及び給水、日常管理	3	3	【新規】飼料用の木の葉の供給が滞るなか、園内や関係施設からの調達等により飼育動物に支障が生じないように対処した。 【新規】ゾウの採食にかける時間の延長およびを野生本来の行動を誘発し、鼻、首、肩の筋力強化を図るため、ヘイネットやフィーダーを高所に設置し、鼻をあげて採餌するよう工夫した。また、タイヤや丸太を設置し、ゾウが体で押したり鼻で持ち上げたりすることでフラストレーションの発散をできるようにした。 【新規】ゾウの夜間の利用空間を広げるため、寝室と展示場を夜間開放とした。 【新規】テングザルおよびヤブイヌの採食時間の増加、行動レバートリーの増加のため、新たなフィーダーを作成し設置した。 【新規】ドールの展示場に紙管や剪定枝を複数頭でひっぱりあえるよう遊具を設置したところ、運び・破壊等の社会的遊び行動を誘発させることができた。 【新規】ウーリーモンキーがロープや擬つたを使用せず金網を渡るため、展示場内の金網に糊を左右と奥に計6つ設置し、休憩できる場所を設けた。しかし、体調不良個体がいいたため年度内に効果測定には至らなかった。 【新規】エランドのエンリッチメントによる生活の質の向上及びブラッシングによる換毛期の換毛補助のため、清掃作業には使用できなくなった古いデッキブラシを壁に設置したところ、換毛期などに頻繁に使用していた。 【新規】ライオンに様々な形のおもちゃ(ブイ、段ボール、かぼちゃ、ドリップ氷等)を与え、行動のレバートリーの変化を観察したところ「獲物を捕らえるような行動、食べる(ドリップ氷)、体をこすりつける行動レバートリー」が増加した。	3		4(1)、(2)
		②季節ごとの管理、繁殖の管理、高齢個体の管理、傷病個体の管理	3	3	【改善】ミナミアフリカアウトセイ展示場で前年度に設置したミストを活用して暑熱対策を開始した。 【新規】ホッキョクグマの産室を改良し繁殖につなげた。 【新規】防寒対策としてシンオザルの寝室におが粉を敷設した。アカハナグマの展示場の小屋に毛布を入れた。 【新規】シンオザルの高齢個体が盲目になったため、性質の強い個体との同居は控え、穏やかな個体と過ごさせる群れ構成の変更を行い、確実な採餌をできるようにした。 【新規】アカアシンドゥクラングールの高齢個体が後肢麻痺により移動が困難となったため、低い寝台やクッションなどを設置、暖房をあたりやすい位置に増設するなど対応した。(12月13日に死亡) 【新規】ニホンザルの高齢個体が盲目のため群れと分けて飼育。35歳と高齢のため暖房を設置するなど体調に合わせた管理をしている。 【新規】アカカンガルーが口腔内異常やそれに起因した腸閉塞様症状を呈した個体に対し、抜歯等の処置をするとともに、一時的に隔離する小寝室の暖房効率向上のため屋根を設置するなど環境を整えた。	3		4(3)～(6)
		③獣医学的衛生管理	3	3	【改善】オカビ、ゴールデンターキンで麻酔下削蹄を行った。手順について、事前に職員間で共有したうえで実施したことでスムーズな対応ができた。	2		4(7)
			3	2	適切に実施している。	2		4(7)
			3	3	【新規】カワウソの輸送中に死亡(2025/1/28当園から那須どうぶつ王国へ移動)したことを受け、次の輸送(2025/3/24ふくしまから当園へ移動)の際には、温度・湿度データロガーおよび常時複数名で監視できるカメラシステムを構築・導入した。	3		4(7)
		④動物舎及び展示場の管理、脱出防止	3	3	【新規】ドール展示場のガラス面の低反射フィルムを更新した。 【新規】脱出防止を目的としたキツネ展示場の改良を完了した。 【新規】前年度の職員と動物の事故を受け、安全対策のための監視カメラと扉表示板を危険獣舎に設置した。(市と別協定締結、市に事前協議)また、危険獣の放飼収容時は、管理職立ち合いの元、2名体制で実施するようにした。 【新規】アフリカンバードケージにおいてケージのスルーネットのやぶれ・破損の修繕を行った。 【新規】タンチョウ・マナヅル展示場の雨よけ小屋の更新・設置を行った。 【新規】インドゾウの準間接飼育への移行に伴い、獣舎にPCW設置工事を実施した。(市と別協定締結、市に事前協議) 【改善】逸走防止訓練として、昨今の自然災害が多い状況を鑑みて、地震災害に伴うチンパンジーの逸走を想定した情報受伝達、捕獲、来園者避難誘導について訓練を実施した。	3		4(8)、(9)
		⑤動物の展示の工夫及び展示施設の修繕	3	3	【新規】ウンビョウ展示場をより良い環境にするために小屋を設置した。冬場はヒーターを入れられるようにした。 【新規】ホッキョクグマの繁殖対応のためデッキを封鎖した際に、デッキ階段脇に親子の様子を紹介するパネルを設置し、順調に育成する様子を紹介した。 【新規】ボウシテナガザル他の展示場内や展示檻周りの植栽を剪定することで、明るく見やすい環境に整備した。 【新規】シンオザル展示場に、アニマルベアレント寄付金を用い、展示場の止まり木の更新。子の成長に伴う行動量の増加を踏まえ、より立体的な動きができるよう工夫した。 【新規】ハイロコクジャクの新着個体の展示開始に伴い、止まり木の増設、雨よけの小屋や暖房器具、砂浴び場の設置などの整備を行った。 【新規】ヤブイヌでは、竹筒を用いた遊具の設置などを行っている。 【新規】亜寒帯の森エリアでは、老朽化対応および情報の更新、新規展示種への対応として、種名看板を更新した。 【新規】オオアリクイ展示場に防寒用小屋の設置した。(寄付利用) 【新規】ユーラシアカワウソの海外からの新規個体導入準備として空調等の設置工事を実施した。(動物園基金より支出、市に事前協議) 【新規】オオアリクイ海外からの新規個体導入準備として空調や防寒用カーテン等の設置工事を実施した。(動物園基金より支出、市に事前協議)	3		4(10)
		⑥飼育日誌、飼育録、診療・検査日誌、動物台帳等の記録と動物数等の報告	3	2	適切に実施した。	2		4(11)
		⑦野生動物の保護及び繁殖(種の保存)	3	3	繁殖計画に則り適切に実施した。 【新規】オカビにおいて昨年度のベアリングの結果、7月30日に繁殖に成功した。 【新規】ホッキョクグマにおいてベアリングを実施し、11月18日、1頭出生し順調に育成した。 【新規】フランスワルトンの繁殖計画に則り、避妊インプラントの挿入及び抜去を実施した。 【継続】クロサイにおいて血中ホルモン動態を確認しながらベアリングを実施した。 【継続】スマトラトラにおいて血中ホルモン動態を確認しながらベアリングを実施した。 【継続】ボルネオオランウータンにおいて血中ホルモン動態を確認しながらベアリングを実施した。 【新規】カンムリセイランにおいて来季の繁殖に向けベアの組み換えや飼育場所の変更を実施した。 【新規】ユーラシアカワウソにおいて新規個体導入及びベアリングを実施し、8月11日出生の2個体を人工哺育し無事育成。10月22日に自然哺育にて無事育成した。 【継続】「世界オカビの日」、「国際ホッキョクグマの日」等の取組では、NPO団体と協力して、寄付を通して現地保全団体の取組を支援した(オカビ：195,710円、ホッキョクグマ：624,330円) 【新規】地域のいきもの保全プロジェクト活動の一環として、横浜市の横浜動物の森公園整備事業に伴う、ホトケドジョウの危険分散事業に協力。 【改善】ツシマヤマネコの人工授精を実施。国内外において実施した症例数が少ないため、データの蓄積を積み重ねることによって人工授精の手法の確立を目指している。	3		4(12)

3	教育普及業務	⑧動物の収集	動物の収集については、横浜市の収集計画に則り、国内外の情報収集を行いながら、適切に実施しているか	3	3	収集計画に則り、適切に実施した。 【新規】ウーリーモンキーを日本モンキーセンターより導入した。(BL契約) 【新規】チベットモンキーを日本モンキーセンターより導入した。(BL契約) 【新規】ユーラシアカワウソをワルシャワ動物園(ポーランド)から導入した。(譲受) 【新規】ハイイロコウジャクを智光山公園こども動物園から新規導入した。(BL契約) 【新規】ツシマヤマネコを、九十九島動植物公園・東山動物園から導入した。(保護増殖事業) 【新規】ミーアキャットを豊橋総合動植物公園から導入した。(繁殖契約) 【新規】バードショーの継続性を考慮して新たにモモイロインコとベンガルワシミミズクを購入した。	3		4(14)
		①動物や環境に関する教育プログラムの企画、実施	動物を取り巻く環境や野生動物の現状について園の内外を問わず、積極的に教育プログラムを行っているか	3	3	学校連携2校18件、来園107件、出張26件、オンライン1件(R5実績:学校連携2校11件、来園120件、出張31件)(昨年度比 学校連携+7件、来園-12件、出張-5件、オンライン+1件) 【改善】・プログラム「動物福祉の取組み」内に環境エンリッチメントに関する動画を組み込んだ。	2		5(1)
3	教育普及業務	②動物とのふれあい体験の実施	ふれあい体験について、動物の福祉と衛生管理に留意し、事故等がないよう安全に実施されているか	3	2	適切に実施した。	2		5(2)
		③市民・利用者の学習支援、情報発信	市民・利用者、学校等教育機関に対して、積極的に情報発信や学習支援の要望に対応しているか	3	3	【新規】世界キリンの日及びホッキョクグマの日では外部講師を招いての講演会および保護団体への寄付も実施した。(参加者:キリンの日:84名 ホッキョクグマの日:120名) 寄付額は下記12-①に記載 【新規】世界チンパンジーの日ではジェーン・グドール・インスティテュート・ジャパンとの連携で講演会を実施した。 【新規】横浜市歯科医師会との連携で動物の歯に関する講義を実施した。 【新規】ズーラシアフェスにて、外部講師(NPO法人日本オランウータン・リサーチセンターの久世濃子さん)を招いた講演会「インドネシアの熱帯雨林に住むオランウータンといきものたちについて」やITTOと連携したワークショップを実施。(参加者90名) 【新規】神大附属中学校の探求学習に協力。横浜市環境科学研究所、横浜市繁殖センターと連携し、地域の生物多様性についての講座を実施した。 【新規】神奈川県博物館協の研修会に協力。周年事業をテーマに、ズーラシアの周年行事を紹介 【新規】フェリス女学院大学との連携で、学生が作成したパネル(カンムリセイラン、ベトナムキジ、ドックラングール)を掲示した。 【新規】世界オカビの日イベントにおいて横浜市東高校の学生がパネル作成や運営ボランティア2名が当日ワークショップのフォローを行った。 (参加者 ガイド:390名 ワークショップ:400名 楽器演奏:390名) 【新規】赤ちゃん動物の情報公開。今年度繁殖したオカビやホッキョクグマの赤ちゃんの生育状況を月1回以上の頻度で定期的に発信した。	3		5(3)
4	調査研究業務	①調査研究の実施、繁殖センターとの連携	調査研究について、職員自ら常に調査研究の意識を持つとともに、研究機関や市繁殖センター等と積極的に連携し、実施しているか	3	3	【新規】山形大学と共同でアメリカミズアブを用いた動物糞の堆肥化について研究を実施した。また、これについては論文掲載となった「Establishment and characterization of an immortalized redriver hog blood-derived macrophage cell line」。 【新規】ホッキョクグマの子育て行動と子の成長に伴う変化について調査した。 【新規】アフリカ豚熱対策として農研機構に提供したアカカワイノシシの血液から新たな細胞株を樹立した。 【新規】ホッキョクグマの糞中ストレスホルモンの季節的変動の分析を実施した。 【新規】インドゾウの夜間放飼時の行動分析を行った。 【新規】ホトケドジョウの危険分散として、公園緑地整備課と協力し、横浜動物の森公園整備事業整備予定地に生息するホトケドジョウの一部を預かった。 【新規】繁殖センターと連携しホッキョクグマの毛根を用いた繁殖子の性判定を実施した。 【新規】園内および周辺のトンボ相についての調査報告が、『神奈川自然誌資料 第46号』(査読有)に掲載された。 【新規】論文「Prevalence and Transmission Cycle of Avian Pathogens in the Isolated Oceanic Islands of Japan」が「Ecology and Evolution」に掲載された。	3		6(1)、(3)
		②成果の発表と市民への還元及び動物園活動への応用	調査研究の成果は動物園活動に役立てるとともに、積極的に学会等で発表し、かつ市民にホームページ等で分かりやすく情報発信をしているか	3	3	・動物園関係者に向けた取り組み 【新規】前年度に24年ぶりに繁殖に成功したシシオザルについて動物園技術者研究会で発表した。 【新規】キジ舎の変遷と今後の飼育管理について局業務研究・改善事例発表会で発表した。 【新規】チンパンジーにおける国内最高齢出産事例と、仔の成長について、ブロック動物園技術者研究会で発表した。 【新規】オカビの「繁殖生理や子育て行動の分析」について、動物園水族館大学で発表を行った。 ・市民に向けた取り組み 【新規】企画展「身近ないきもの展」について、公開飼育研究会で発表した。(参加者:45名) 【新規】「国際チーターの日」イベントにおいて、チーター保全基金(CCF)の取組を紹介するとともに、活動を支援した。寄付額は12-①に記載 【新規】テングザルのこれまでの飼育管理で得られた知見(繁殖生理や栄養管理など)について、「テングザルの飼育のあゆみ」として、ズーラシアラフェスで講演を行った。(参加者:90名) 【新規】「ツシマヤマネコの日」イベントにおいて、ツシマヤマネコに関する保全の取組を啓発するイベントを専門学校にも協力いただき企画・実施した。 【新規】秋の里山ガーデンにおいて、傷病鳥獣を含めた地域生物についての講座「身近な野生動物のお話し」を実施した。(参加者20名) 【改善】国際ホッキョクグマの日の講演会において、当園の繁殖に関連した講演を行った。(参加者:120名)	2		6(2)
5	野生傷病鳥獣	①全般	野生鳥獣や海外からの密輸動物等の保護や普及啓発活動に積極的に取り組んでいるか	3	3	【改善】22種140点保護受した。ズーラシアでは新規の種として、アマツバメ、ヨタカを保護し、アマツバメは保護時から状態悪く、予後不良のため淘汰となったが、ヨタカは放鳥に至った。 【新規】協会HP「傷病鳥獣保護の取組み」についてこれまでの「保護を推奨しているという見え方」もできた内容を、「基本的には見守ることがベター」であることが伝わりやすい内容にした。	2		7 4(13)
6	維持管理業務	①園地及び各種施設・植栽等の維持管理	園地及び各種施設、植栽について、「維持管理基本水準書」に従って適切に管理されているか	3	3	【改善】自然体験林のナラ枯れについて、市と別途協定を結び伐採を実施したほか、園内各所について速やかにナラ枯れ伐採を実施し、利用者の安全確保とナラ枯れ拡散防止に努めた。 【改善】大池の水生植物の草刈り等を野生動植物に配慮して行った結果、カイツブリ等の繁殖回数・確認数が増えた(R5春1回幼鳥2羽確認、R6春幼鳥4羽確認・秋幼鳥2羽確認)。 【改善】花壇やフラワータワーにおいて、新たなデザインを取り入れるなど工夫して花壇演出に取り組んだ。 【改善】生き物調査などで得た情報を「身近な生き物展」や、来園者参加型の「昆虫見つけ隊」等のイベントに活かし、来園者への教育普及につなげている。 【継続】車が近寄れない高木もツリークライミングにより適切に剪定を行っている。 【継続】清掃で回収した落葉を獣舎の寝床に利用するなど有効活用している。	3	ナラ枯れ伐採については、安全に配慮して行われていた。	8(1) 15(1)～(4)
		②点検、修繕、改修	施設について、安全の確保や保全管理のために、法定点検並びにその他の点検(簡易、精密等)を適切に実施し、必要がある場合は修繕、改修についても適切に実施しているか	3	3	【新規】コロブスの擬ヅタの修繕を行い、景観及び動物飼育環境を向上させた。 【新規】寄付金を活用して、シシオザルの止まり木修繕を行った。 【新規】動物園基金等を活用し、飼育スペース確保のための仕切りや空調の設置など、カワウソの寝室の改修を行い、飼育環境の改善と新規個体受け入れに対応した。 【新規】動物園基金等を活用し、オオアリクイの新規個体導入のための雨避けや小屋、防寒カーテンを設置した。 【新規】園内の種名ラベルの更新及び多言語化、サイン更新、総合案内看板の盤面改修を行った。 【新規】チンパンジー展示場ビューポイントの修繕やドール展示場への反射防止フィルムの取り付けなど、施設の魅力向上に資する計画的な修繕を行った。 【新規】ライオン舎等への監視カメラの設置やゾウの準間接飼育のための扉の改修など、飼育員の安全確保に関する改修を行った。 【新規】アカカンガルー-防寒対策、ウンビウ展示場小屋更新、インドライオン展示場木柵改修、ホッキョクグマ舎の産室改修や、カワウソ展示用の逸走対策など、動物福祉や飼育環境の改善、来園者の安全確保に積極的に取り組んだ。 【改善】アスベスト調査の台帳を更新し、点検精度を向上させた。 【改善】園内各所の照明のLED化を行った。 【改善】劣化した動物オブジェの再塗装を実施し、美観向上に務めた。 【改善】管理棟階段クラックの修繕、南入ロリングゲート下ベンチ修繕、アクアテラス防水工事など、長寿命化・保全のための修繕を行った。 【改善】ホッキョクグマ観覧上丸太塀やアマゾンセンター横の丸太塀再塗装やごろう橋の修繕など木部の修繕を適切に実施した。 【改善】ゴールデンターキン展示場内の土留め板の改修を適切に実施した。	3	とくにLED化については、ご尽力いただいた。	8(2)
		③安全確保・巡視・警備・救護	来園者の安全に配慮し、巡回・警備を行い、案内誘導や事故の早期発見・対応に努め、被害者が発生した場合は救護に努めているか	3	2	適切に実施した。	2		8(3)
		④防犯・防火・防災対策	施設の防犯・防災対策、事故・災害時の対応が適切に実施されているか	3	3	【新規】休園日に正門職員用ゲートをナンバーキーで施錠することとした。	2		8(4)
		⑤備品の管理	備品管理のための各種(動物、備品、薬品等)台帳が備えられ、適切に管理されているか	3	2	適切に実施した。	2		8(5)
		⑥管理報告書の作成等	管理報告書(日報)が適切に作成されているか	3	2	適切に実施した。	2		8(6)、(7)

7	便益施設等の調整業務	①設置者等との調整、調整業務の内容、公園緑地事務所との事前協議、公園以外の許可等の手続き	便益施設等についての設置者等との調整、公園緑地事務所との事前協議・公園以外の許可等の手続きが適切に行われているか	3	2	適切に実施した。	2		9(1)～(4)
8	管理運営業務	①管理運営体制	業務形態にあった人員配置(資格・免許・経験・人数等)が適切に行われているか	3	2	適切に実施した。	2		11(1)
		②人材育成	飼育業務及び環境教育業務の技術の維持向上を図るための技術継承が積極的に進め、また、外部と連携した技術研修等を実施し計画的な人材育成を行っているか(※協会全体ヒアリングもあり)	3	3	適切に実施した。 【新規】海外の飼料メーカー開発担当者を講師とした飼料設計の考え方や最新知見の研修を実施した。参加人数:ズーラシア36名、他10名(野毛・金沢・繁殖センター)。 【新規】動物科学研修として、大学研究者を招き、動物の乳成分と生態の関係について学ぶ研修を実施した。(参加人数30名) 【新規】削蹄研修として、削蹄師を講師に招き、使用道具の管理の仕方を学ぶ研修を実施した。(参加人数15名) 【新規】捕獲訓練事前学習会として、捕獲訓練を踏まえロープワークや捕獲用具の種類と使用方法について学ぶ学習会を約100名対象で実施。実際の参加数は不明。 【新規】安全対策研修を実施(事前グループワーク、講義、外部講師による講義)参加人数:講義(指差喚呼の目的と効果を学び、指差喚呼の徹底等について講義)37名、グループワーク(事前課題として班ごとにヒヤリハット事例の共有、考察と対策。その後全体で発表し共有と考察)42名、外部講師による講義(外部講師による安全対策に関する講義)67名。 【改善】園長を講師としてR5年度とは違ったテーマで動物園学研修を実施(計8回)。	3		11(2)
		③安全衛生管理	労働者の安全衛生管理(労働災害防止等)が適切に行われているか	3	3	【改善】例年実施している施設課職員による「電気の安全について」の講習に加え「建築基準法、消防法に準拠した建築物について」も講習を実施した(受講者:30名)。	2		11(3)
		④年度管理運営実施計画書及び収支予算書の提出、各種報告書等の作成・提出	年度管理運営実施計画書及び収支予算書、各種報告書等が期日通りに提出されているか	3	2	適切に実施した。	2		11(5)、(6)
9	その他	①関係機関との協議、連絡調整等	関係機関との協議や連絡調整が適切に行われているか	3	3	【新規】横浜市及び相鉄バスと協議し、「里山ガーデンフェスタ」開催時に自動運転バスの実証実験を行った。※R6年8月～10月 【新規】横浜市と協議し、駐車場料金のキャッシュレス決済及び駐車場機器の更新を実施した。※R6年7月～	3		12(1)、(2)、(4)
		②意見、要望を運営への反映及び是正勧告書	来園者及び横浜市からの意見・要望を管理運営に反映させ、反映結果を横浜市に報告しているか	3	3	【改善】お客様の要望により、授乳室に英語表記の注意書きを記載した。 【新規】お客様からの要望により、スマホ用バッテリーレンタル機を園内8箇所に設置し862件の利用があった。 【改善】レッサールパンダ屋内展示場ガラスビュー前の立ち入り禁止スペースに、子供を立たせているという指摘を受け、柵を設置した。	3		12(3)
		③事故対応、喫煙対応、園内車両通行	横浜市又は第三者への損害賠償、喫煙対策、園内車両通行などの対応が適切に行われているか	3	2	適切に実施した。	2		12(5)～(7)
		④繁忙期対策	繁忙期にあたり、公共交通機関利用促進策等や交通渋滞が発生しないような対策(情報発信や誘導員の配置等)を積極的に行ったか	3	2	適切に実施した。	2		12(8)
		⑤横浜市への施策への協力等、その他の横浜市への協力、金沢動物園再整備事業	横浜市の施策への協力(イベントや各種計画、市内経済活性化、管理運営調査、視察対応等)が適切に行われているか	3	3	適切に実施した。 【新規】地域のいきもの保全プロジェクト活動の一環として、横浜市の横浜動物の森公園整備事業に伴う、ホトケドジョウの危険分散事業に協力。 【新規】国際園芸博覧会に向けた機運醸成として、横浜国際園芸博覧会旭区推進協議会の広報PR活動に協力。ころこロッジ内で塗り絵ワークショップを実施した(相鉄鶴ヶ峰駅でPRアート作品としてR7掲示予定)。 【新規】横浜市のTICAD9 アフリカデジタルスタンブラリー企画にリリースポットとして協力した。	3		12(10)～(12)、(13)、(15)
		⑥法令等の順守	関連法令等を遵守しているか	3	2	適切に実施した。	2		14(14)
10	野毛山動物園固有事項	①万騎が原ちびっこ動物園管理運営業務	万騎が原ちびっこ動物園を適切に管理しているか(教育普及、迷子・遺失物対応、問合せ等)	3					13
11	金沢動物園固有事項	①ののほな館の管理を適切にしている、来園者輸送業務、動物ふん有効活用事業、ユーカーリの栽培管理・調達、森づくりボランティア団体等との連絡・調整と活動協力	金沢動物園固有事項について適切に対応しているか(ののほな館管理、コアラバス、動物糞堆肥、ユーカーリ栽培・調達、森づくりボランティア団体等との調整・活動協力等)	3					14(1)～(5)
		①普及啓発事業	指定管理事業以外の独自の教育普及プログラムを実施しているか	3	3	企画展等 【改善】「うんち展」、「SOS展」はパネル等の掲示物を更新して開催。 【改善】「園長のとっておき写真展」を実施し、写真展と連動した講演会を有料(1,000円)で実施(参加者91名)。 【新規】開園25周年にちなみ、標本、パネル、グッズ、写真などで開園から現在までを振り返る企画展「Back Zoo the Future」を実施。 ズーラシアフェスにて、外部講師を招いた講演会やITTO等と連携したワークショップも実施。 動物記念日企画 様々な動物種において、世界〇〇の日に合わせて特別ガイドやパネル展等により生息地の現状等の普及活動を行った。 【新規・改善】キリンの日、ホッキョクグマの日では外部講師を招いての講演会を実施した。ホッキョクグマの日の講演会は有料(1,000円)とした。 【新規・改善】カワウソの日、キリンの日、オカビの日、チーターの日、ホッキョクグマの日では他団体との連携や現地保護団体への寄付も実施した(寄付金額 カワウソ:135,700円、キリン:137,180円、オカビ:195,710円、チーター:208,430円、ホッキョクグマ:624,330円)。	3		自主事業 1(1)
			ばかばか広場等を活用し、馬などのふれあい体験を適切に実施しているか(よこはま動物園固有)	3	3	【新規】馬の高齢化に伴う、四肢への負担軽減のため、アイシングやマッサージなどのケアを強化した。	3		
		②市民協働やボランティアへの活動支援	区及び周辺地域が主催するイベントへの協力・協働事業を適切に行っているか	3	3	【改善】ジョイナステラス二俣川、相鉄ライフミツ境と連携して、相鉄線ZOOまつりを実施。回遊策として3施設をめぐるスタンブラリーとデジタルスタンブラリー、連携企画として動物SDGsパネル展や職員によるお話し会を実施。 【改善】京急上大岡店で開催された野鳥博で鳥類に関わるズーラシアでの調査研究についてや、野鳥の保護活動について、職員が講演会を実施。レストラン街でズーラシアのライオンに関する普及パネルを掲出。 【新規】中山商店街及び楽天シニアと連携し、デジタルスタンブラリーを実施(111名が景品引き換え抽選会に参加)。 【新規】ビーンズ中山との連携、「まちなか動物園」として、相互誘客のクイズラリーや会場でのパネル展などに地域活性と園外PRに寄与(クイズラリー参加者:378人)。	3		自主事業 1(2)
			各園のボランティア組織の運営サポートや植物管理のボランティア団体の育成及び支援が行われているか	3	3	【新規】植物管理のボランティアは組織化していないが、協賛企業である三井住友あいおい生命のCSR活動と協働して、園路への花植え活動を実施(5/25、97名参加)。 【継続】毎週土日に教育普及ボランティア「ズーラシアサポーターズ」(R5年度から3名増員した 31名)が活動を実施。	2		

12	自主事業 1 自主事業の実施について	③広報やイベントの実施及びマーケティング業務	情報誌等やホームページ、パブリシティを通じた情報提供、誘致活動、各園のコンセプトに沿った公の施設にふさわしいイベントを通し集客力向上に積極的に取り組んでいるか	3	3	広報・メディア掲載(387件)、SNS実績(1814件)。(R5実績:メディア534件(クラウドファンディング関連多)、SNS1837件) 【改善】SNSの発信では、オカビやホッキョクグマ等の繁殖に関する情報を中心とし、YouTube、Instagramの発信を強化。登録者数は1万ユーザー以上増加した。 【新規】外部企画提案から首都圏JRTレインビジョンへの無料掲載し(有料の場合、数百万以上と推測)、認知・興味の向上に寄与。 【改善】市営地下鉄中山駅床面広告を更新。 【新規】園及びイベントの認知度および興味喚起のため、ファミリー向け有料WEB広告を実施。 園外PRおよびイベント 【改善】春のガーデンパーティー、夏のナイトズーラシア、秋のズーラシアフェスを昨年度の振り返りを踏まえ実施。 【新規】酷暑対策として外部委託での水鉄砲イベントを試験的に実施。参加者が限られるため、費用対効果は低かった。 【改善】ジョイナステラスニ俣川、相鉄ライフミツ境と連携して、相鉄線ZOOまつりを実施。回遊策として3施設をめぐるスタンプラリーとデジタルスタンプラリー、連携企画として動物SDGsパネル展や職員によるお話し会を実施。 【改善】京急上大岡店で開催された野鳥博での講演を通したPRを実施。 【新規】中山商店街と楽天シニアと連携し、デジタルスタンプラリーを実施。 【新規】ビーンズ中山との連携。「まちなか動物園」として、相互誘客のクイズラリーや会場でのパネル展などに地域活性と園外PRに寄与。 【新規】JR東日本横浜線と子育て支援、相互誘客を目的とした連携を実施。ラッピング車両、クイズラリーを実施。横浜線主要駅に関連ポスター掲出、JRWEBサイトで園情報を周知。(クイズラリー実績:1539人) 【新規】園内イベント時等に次の取り組みを実施した。 ・ギフトショップでお客様の要望が多かった、動物画像を使ったグッズ(ステッカー、アクリルキーホルダー、缶バッジ、ポストカード等)やレッサーパンダをデザインしたTシャツ(OJICO)2種を販売した。 【国際レッサーパンダデー2024】 グッズ売り上げ(R5年度比) : 点数 112%増 金額 145%増 ・園内ショップでレッサーパンダ商品の特設コーナーを展開し、飼育員作成のPOPを掲示した。 ・フォトサービスでレッサーパンダ画像の限定キーホルダー4種を販売した。 ・オージーヒルグリルレストランで「レッサーパンダホットケーキ」を販売し飼育員作成のPOPを掲示した。 【世界オカビの日イベント】 グッズ売り上げ(R5年度比) : 点数 162%増 金額 143%増 ・フォトサービスでオカビの赤ちゃん(ブラハ)や親子など限定キーホルダー5種を販売した。 ・オージーヒルグリルレストランで「オカビホットケーキ」を販売した。 ・園内ギフトショップで、オカビ関連商品の特設コーナーを展開した。 【国際チーターの日イベント】 グッズ売り上げ(R5年度比) : 点数 471%増 金額 179%増 ・フォトサービスで限定デザインキーホルダー4種を販売した。 ・オージーヒルグリルレストランで「チーターホットケーキ」、サバンナテラスで「ムアンバライス」ほか特定メニューを注文の方に飼育員作成のチーターカードをプレゼントした。 ・園内ギフトショップで、チーターグッズの特設コーナーを展開した。 【国際ホッキョクグマの日イベント】 グッズ売り上げ(R5年度比) : 点数 134%増 金額 153%増 ・フォトサービスで限定デザインキーホルダー3種を販売した。 ・オージーヒルグリルレストランで「くまさんロールケーキ」ほか特定メニューを販売。飼育員作成のPOP(食品ロスの削減、カーボンフットプリント)を掲示。	3		自主事業 1(3)			
13	自主事業 2 管理許可施設等	①自動販売機、車椅子、ベビーカー等、売店・レストラン、駐車場(よこはま動物園、金沢自然公園)、園内移動バス(よこはま動物園)、パーベキュー広場(金沢自然公園)		3	3	【新規】横浜市と駐車場機器更新及び料金キャッシュレス決裁対応について協議し、R6年7月から実施した。	3		自主事業 2(1)～(6)			
				合計	108					101		
				配点	120					120		

■事業評価 自己評価の採点の目安

1 仕様書等の基本項目

- ・概ね以下を目安として採点してください。

3点	仕様書等で求める水準を上回る工夫や実績、大幅な改善等を行った、など
2点	仕様書等で求める水準で業務を行った
1点	仕様書等で求める水準で業務が実施できなかった、など
0点	仕様書等で求める業務が実施できなかった、など

2 事業効果

(1) 目標に対する結果、取組状況等

- ・目標ごとに概ね以下を目安として採点してください。

配点：目標への達成状況 5点＋評価の視点に基づく加点 5点 計10点

【達成状況 採点の目安】

5点	目標を大きく上回るなど、顕著な実績を上げた、など
4点	目標を上回る実績を上げた、など
3点	目標を達成できた
2点	目標が達成できなかった、など
1点	目標を大幅に下回った、など
0点	目標に関する取組を実施していない、など

(2) 自由記述項目

- ・項目ごとに概ね以下を目安として採点してください。

配点：各項目3点×5項目 計15点

3点	新たな工夫や管理運営の改善への大きな貢献など、事業への大きな効果があった、など
2点	取組により管理運営が改善されるなど、事業への効果があった、など
1点	取組んではいるが、事業への効果があまりなかった、など
0点	取組による事業への効果がなかった、取組が行われていない、など

3 運営及び経営の取組計画

動物園の役割「種の保全、調査・研究、環境教育、レクリエーション」に関する事業を、国内外の動物園のみならず多様な関連組織と連携、協力しながら実施し、その成果を広く世界に向けて発信します。また、令和8年度から繁殖センターの指定管理が3動物園の指定管理に加わったことにより、繁殖センターの調査・研究のノウハウを3動物園と共有し、種の保全を効果的に進めるとともに、繁殖センターと3動物園を一体運営することで、スケールメリットを活かした管理運営を行い、組織の活性化を図ります。これらにより、絶滅の危機にある野生動物の生息環境や生物多様性保全に貢献するほか、市民・来園者の皆さまに地球環境保全のための行動変容と社会改革を促します。

また、横浜市が進める「3つのZOO みらいプロジェクト」に協力し、子どもを中心に、多様な体験や学びの場を創出するとともに、横浜の都市としての魅力やブランド力の向上に繋がります。横浜市が行う野毛山動物園リニューアルを踏まえた動物移動等の準備や休園前のイベント企画等に取り組みます。更に「GREEN×EXPO 2027」に向け、各園でポスターの設置やパンフレット・入園チケット等へロゴマークを掲載します。金沢動物園では区役所等のGREEN×EXPO 2027 関連企画と連携し、園で実施するZoo to Wild Fesをはじめとしたイベントやノベルティグッズの配布等を行います。

また、集客宣伝活動により来園者数を増やすとともに、来園者や企業団体等との関わりをより深め、支援につなげることで、入園料収入と自主財源を増やし、より良い動物園経営を目指します。

(1) 目標

① 入園者数

来園者の方々が安心して施設を利用いただけるよう、動物園運営やサービスについて多様で魅力ある体験ができる自主事業を企画実施するほか、利用者の皆様のニーズを捉えた飲食物販事業を展開します。

園名	目標人数	令和7年度来園者数（見込）
よこはま	105 万人	103 万人
野毛山	45.5 万人	49 万人
金沢	28 万人	27 万人

※野毛山はリニューアル工事のため、年度内に休園期間を設ける可能性があるため、目標入園者数を調整しています。

※令和7年度来園者数（見込）は、令和7年2月末日現在の試算です。

② 種の保全（国内外の希少野生生物種の保全の取り組み）

（公社）日本動物園水族館協会（以下、「JAZA」という。）や環境省、全国の動物園等と連携し、実効性のある保全活動に取り組むとともに、独自に海外施設等との連携を進めて飼育下個体群の維持を進めることを目標として、目安として年度単位で13種指定します。生息域外保全施設としてアニマルウェルフェアに配慮しながら、飼育動物の移動や繁殖等の飼育管理により、飼育下個体群の遺伝的多様性の保持に努めます。海外からの動物収集については、横浜市の動物園基金を活用します。

令和8年度の目標	【目標】スマトラトラ・オカピ・ライチョウ等13種について、種の保全に取り組む 【取組】主に以下について取り組みます。 ＜海外希少種で保全に取り組む種＞ ① スマトラトラ：GSMP*に沿った海外からの個体導入およびペアリングの実施（新規） ② オカピ：SSP**に沿ったペアによる繁殖（継続） ③ ヤブイヌ：EEP***に沿ったペアリングの実施（継続） ＜累代繁殖を継続するため、海外との収集、交流に取り組む種＞ ④ ヘサキリクガメ：国際血統登録者（兼EEP調整者）と協力して、同種の保全に関する各種情報の収集、及び台湾・台北市立動物園と希少動物の繁殖に協力し、友好関係を構築するため、希少カメ類の個体交換の実施。 ⑤ インドライオン：海外からの収集に向けた情報収集、国際血統登録者への飼育報告（継続） ⑥ コアラ：オーストラリアとのアンバサダー契約に基づき、飼育報告書の提出や個体導入のための継続的な調整を実施（継続） ⑦ テングザル：インドネシアとの保護協定に基づき、飼育報告書の提出や繁殖のための継続的な調整を実施（継続） ⑧ ユーラシアカワウソウ：海外導入個体を用いたペアリングの実施（新規） ⑨ オオツノヒツジ：海外からの個体導入調整の実施（新規） ＜日本産希少種で保全に取り組む種＞ ⑩ ツシマヤマネコ：人工授精の取組及び繁殖生理に関するデータ収集の実施 ⑪ ニホンライチョウ：展示による普及啓発及び環境省の生息域外保全プロジェクトへの参画 ⑫ ミヤコカナヘビ：飼育下繁殖技術と科学的・獣医学的知見の集積への協力及び展示による普及啓発 ⑬ アマミトゲネズミ：飼育下繁殖技術確立および展示による普及啓発
----------	---

*GSMP：世界動物園水族館協会（WAZA）が策定する国際種管理計画

**SSP：北米動物園水族館協会（AZA）が策定する種保存計画

***EEP：欧州動物園水族館協会（EAZA）が策定する欧州絶滅危惧種計画

③ 環境教育プログラム

市民に対し、動物たちの生息環境や生物多様性保全の重要性を学び、持続可能な社会の構築を目指す環境教育プログラムを提供します。プログラムは、教育現場の要望に対応するだけでなく、社会情勢も加味し、動物園としての教育目標を反映させていきます。

令和8年度の目標として、日常的なガイドに加え、より専門的な講演会・連続講座等における環境教育を目的としたプログラム参加者数（学校プログラム以外）を3園で年間30万人とします。

資料3

令和8年度 横浜市動物園等指定管理者選定評価委員会開催日程案

実施月 (予定)	第1回	第2回	第3回	第4回
	6月3日	8月下旬	11月上旬	1月中旬
モニタリング				モニタリング報告
事業評価	R7年度評価方法について、 会議の公開について、 委員長の選定等	R7年度事業評価		
R8年度 事業評価 (R9年実施)	課題の共有		事業評価案案提案	評価方法の決定
事業計画	R8年度実施計画書(配付)			
見学等	金沢動物園		よこはま動物園	
指定管理者出欠		出席		

・見学等は集合形式での実施となりますが、その他については集合形式とWEB形式を併用して実施する予定です。

CITY OF YOKOHAMA

3つのZOOみらいプロジェクトを 始動します

～横浜の3動物園の魅力向上に向けた取組～

2026年1月7日
市長定例記者会見



横浜市

3つのZOO

みらいプロジェクト
YOKOHAMA

自然と学びが
いっぱい
金沢動物園

ここにしかない
特別な体験
ズーラシア

もっと
こどもが楽しく
野毛山動物園



横浜市は
18区と3動物園。

みんなあつまる
みんなふかまる
みんなあにまる

野毛山動物園 NOGEYAMA

まちなかにあり、はじめて動物と出会う場所。
動物を間近に感じ、遊びと学びがあふれる動物園へ。



ーもつと
こどもが楽しく

3つのZOO みらいプロジェクト



こどもが動物を間近に感じられる展示



リニューアルした野毛山のエントランスショップ



動物の真似をしたり
同じ環境で遊ぶことができる展示



こどもにも人気のマヌルネコを導入
(ズーペリエンタ！センターで飼育予定)

金沢動物園 KANAZAWA

横浜の豊かな自然を身近に感じ、
こどもたちと一緒に学べる動物園へ。



— 自然と学びがいっぱい

3つのZOO みらいプロジェクト



横浜の豊かな自然を学ぶ
展示施設のリニューアル



地域のこどもたちと行う“身近ないきもの調査”



自然を感じながらくつろげる空間の創出
(休憩棟のリニューアルなど)



捨てずに活かす
動物園を中心とした“資源の循環”

よこはま動物園
ズーラシア
ZOORASIA

世界の自然につながり、特別な体験ができる動物園へ。
世界の動物の命を、未来へつなぐ動物園へ。



—ここにしかない
特別な体験

3つのZOO みらいプロジェクト

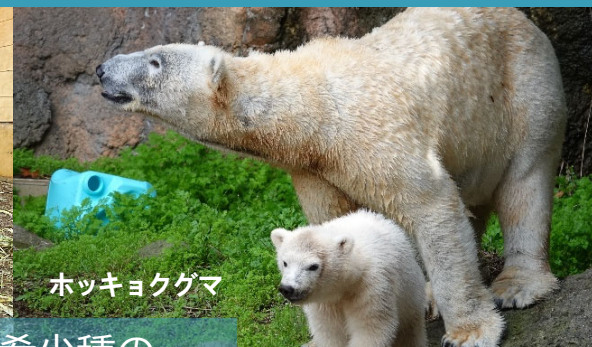
“観光拠点”としての新たな魅力の創出
(国内外からの誘客)



動物の不思議に迫る特別なプログラム



オカビ



ホッキョクグマ

世界の希少種の
保全につながる取組



インドライオン



ヘサキリクガメ



動物の生息環境を感じられる
観覧スペースの磨き上げ

共通Concept 1

観光の “拠点” としての役割

Sightseeing / Entertainment / Experience

動物園は観光の拠点としての役割も担っています。何
度でも訪れたい「ここにしかない」特別な体験
を提供し、横浜の魅力向上に貢献することが期待されて
います。動物園での驚きと楽しさ溢れる体験のなかで、
こどもの心に気づきや関心が生まれます。



3つのZOO みらいプロジェクト

共通Concept 2

環境教育の “発信地” としての役割

Environmental Education

動物園は、動物福祉に配慮した飼育・種の保全や環境教育を通じて、生物多様性保全に貢献しています。来園者が動物園での体験により、野生生物や自然環境を取り巻く状況に目を向け行動するようになることは、社会の意識を変える第一歩となります。一今、動物園にはその役割と可能性が、これまで以上に期待されています。



3つのZOO みらいプロジェクト

令和8年度から3動物園での魅力向上の取組を
順次進めていきます。

3つのZOO
みらいプロジェクト
YOKOHAMA

ズーラシア 金沢動物園 野毛山動物園

令和8年度

横浜市立動物園等 管理運営実施計画書

よこはま動物園

野毛山動物園、野毛山公園

金沢動物園、金沢自然公園

令和8年3月31日

公益財団法人 横浜市緑の協会

令和8年度 横浜市立動物園等 管理運営実施計画書目次

1	はじめに	1
(1)	令和8年度実施計画書の方向性	1
(2)	令和8年度の主な取組	1
2	管理体制計画	2
(1)	動物園等の管理体制	2
(2)	人材マネジメントの取組	3
(3)	リスクマネジメントへの対応	5
3	運営及び経営の取組計画	6
(1)	目標	7
(2)	マーケティング戦略の展開	7
(3)	動物園マネジメントの取組	11
(4)	教育普及業務	14
4	動物の飼育管理計画	17
(1)	飼育現場での取組	17
(2)	保全に貢献する取組	20
(3)	調査・研究などに対する取組	22
(4)	繁殖センター事業	22
5	施設等の維持管理計画	23
(1)	施設管理	23
(2)	園地及び遊具等の維持管理	24
(3)	樹木・植栽等の育成管理	24
6	管理運営経費計画	24
(1)	収入	24
(2)	支出	24

資料

別添 令和8年度維持管理実施計画

※令和8年度実施計画に関して、各種事業の変更や中止を行う場合、横浜市等と協議の上、随時案内します。

1 はじめに

横浜市立動物園等管理運営実施計画書（以下、「実施計画書」という。）は、指定管理者である公益財団法人横浜市緑の協会（以下、「当団体」という。）が横浜市立動物園等の指定管理事業計画書（以下、「事業計画書」という。）で提案した令和8年4月1日から令和18年3月31日までの10年間の計画に基づき年度ごとに提案し、横浜市との協議を経て策定するものです。

（1）令和8年度実施計画書の方向性

本実施計画書では、事業計画書で提案した基本的な方針を達成するため、事業評価報告書等における指摘事項等を踏まえ、令和8年度の年度計画を定めます。

基本的な方針（事業計画書より）

「豊かな地球を未来へ引き継ぐために社会を変えていく動物園をビジョンとして掲げ、各動物園の特性を活かした取組をさらに生物多様性保全の拠点として価値を高めるべく、以下を基本方針とします。

- ◆動物に魅せられ、共に生きることの大切さを感じられる場の提供をします。
- ◆野生生物に対する科学的な知識を深め、その情報を市民の皆様と共有します。
- ◆野生生物や生息環境のことを多くの人々に伝え、行動につなげます。
- ◆世界と手を取り合って、野生生物を計画的に守っていきます。

（2）令和8年度の主な取組

上記の基本方針等のもと、以下の管理運営方針に則り、令和8年度の事業を進めます。

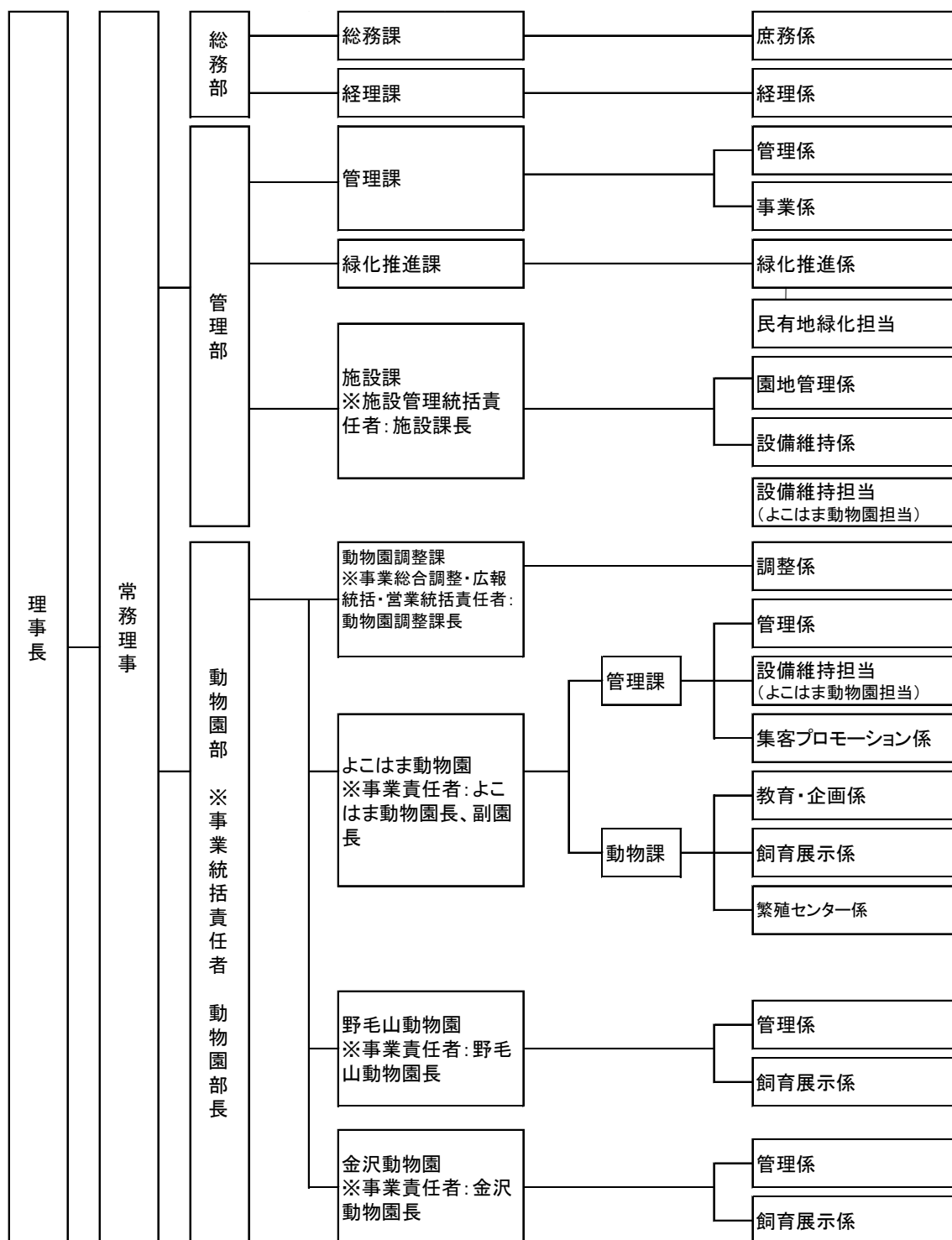
管理運営方針 (事業計画書より)	令和8年度の主な取組
① 動物に魅せられ、共に生きることの大切さを感じられる場を提供します。	・動物や緑豊かな動物園の魅力を体感できる動物の展示と施設、緑の維持管理 ・誰もが安全・安心・快適に動物園を体験できるサービスの提供と賑わいの創出 ・動物や動物園の情報発信による人々の興味喚起と施設利用の促進
② 野生生物に対する科学的な知識を深め、その情報を市民と共有します。	・野生動物の飼育、繁殖技術の向上等に資する調査研究の実施 ・動物園のフィールドを活用し、大学や研究機関と連携した調査研究の推進 ・調査研究成果の情報発信による市民への還元
③ 野生生物や生息環境のことを多くの人々に伝え、行動につなげます。	・子どもたちをはじめ、様々な人々が知り学べる環境教育の実施 ・SDGs等の社会が直面している課題を考え、分かち合う場の改善 ・教育や啓発を通じたNP・NbS等の保全意識の向上と行動変容の促進
④ 世界と手を取り合って、野生生物を計画的に守っていきます。	・国内外の動物園や関係機関、繁殖計画と連携した希少野生動物等の保全 ・アニマルウェルフェアに即した飼育管理及び獣医療の実施 ・地域の生物多様性保全への貢献

2 管理体制計画

(1) 動物園等の管理体制

3 動物園等を一体管理することにより、各園が連携して事業効果を高めるとともに、独自の魅力や機能・役割を発揮しながら成長できるよう、総合的に調整できる運営組織を編成します。また、よこはま動物園には、管理体制を強化する観点から新たに管理課長を1名配置すると共に、動物飼育、教育普及を強化する観点から動物課長を1名配置し、教育・企画係を新設します。さらに集客プロモーション係を新設し、利用促進、団体誘致、集客施策企画等を強化します。さらに、繁殖センターを係として加えた6係体制とします。

【令和8年度事業執行体制】



(2) 人材マネジメントの取組

当協会の人材育成ビジョンの基本方針に沿い、今後の動物園運営を担う人材の育成を図ります。また、動物園の社会的価値を向上し、自律的かつ持続可能な動物園運営を行えるよう、必要なノウハウの「習得」「蓄積」「継承」「発展」を担える人材を継続的に育成します。

① 人材育成基本方針

- ア 職員の「成長実感＝やりがい」を支援する
- イ 職員の能力を向上させ、「自信」を育む
- ウ 「人を育てる組織風土」を醸成し、組織全体の力を高める

② 職種ごとの果たすべき役割

職種	果たすべき役割
事務	動物園の管理運営が円滑に遂行できるよう、来園者サービスや集客を含む施設の管理運営や、文書事務のエキスパートとしての役割を担うとともに、市民や企業、団体、行政等のステークホルダーと積極的に対話し、調整します。
造園	動物園の施設について、長期的な展望を見据えた施設維持や植栽等の園内樹木の維持管理を行うとともに、利用者の安全・安心・快適を確保できるように予防保全を図ります。また、動物園及び自然公園における生物多様性保全への対応策としての緑化、市民連携等の業務に対応します。
動物・獣医	動物の飼育管理、繁殖、生理生態、獣医療、研究に関する知識や技術を持ち、飼育管理や繁殖、域内外の保全活動を通じて、アニマルウェルフェアや生物多様性保全、環境教育等を推進します。また、国内外の様々な関係者との対応、調整により動物園の存在価値を高めると共に、生きもののエキスパートとしての役割を担います。

③ 計画的な人材育成

上記職種ごとの果たすべき役割を達成するため、お客様サービス、専門性向上に資する下記の研修を行い、人材育成を図ります。基本研修および専門職研修の※印については、全職員が毎年受講し、その他の研修は、対象職員が受講します。

種別	研修名	実施予定月	予定時間数
基本	CS・接遇研修※	8～12月	3時間 30分
	コンプライアンス研修※	8～12月	3時間 30分
	人権啓発研修※	8～12月	1時間
	安全運転講習	10～12月	1時間
	ハラスメント研修	10～12月	4時間 15分
	情報セキュリティ研修※	4～3月	1時間
	メンタルヘルスケア研修	10～12月	4時間 15分
実務	文書事務取扱研修	5月、6月	4時間
	経理事務取扱研修	6月、10月	1時間×2回
	広報研修	4～6月	1時間
	広聴研修	4～6月	1時間
	SDGs 研修	2月	2時間
専門職	造園等 公園施設点検研修	5月、6月	4時間
	安全対策研修	下半期	2時間
	水処理施設薬品取扱研修	4月	1時間
	設備維持管理研修	上半期	2時間

	事務・動物	マーケティング研修	下半期	7 時間
		ファンドレイジング研修	下半期	7 時間
	動物・獣医	安全対策研修※	4 月、7 月、10 月、1 月	1 時間×4 回
		動物園学研修※	毎月	1 時間×12 回
		調査・研究研修（新規）	年 1 回	2 時間
		アニマルウェルフェア研修	年 1 回	2 時間
		動物福祉研修（オンライン）※	上半期	4 時間
		野生動物保護研修※	下半期	3 時間
		（公社）日本動物園水族館協会 動物園参加型研修会	2 月	7 時間
		WAZA ミッドイヤーミーティング	年 1 回	4 時間
	造園・動物・獣医	生物調査・環境教育研修	下半期・年 1 回	2 時間
		保全管理研修	下半期・年 1 回	2 時間
	階層別	新採用職員研修 （事業説明・飼育・ガイド）	4 月	1 時間×3 回
		若手職員（5 年目目安）研修 （配属園以外で飼育研修等）	下半期	7 時間
		中堅職員研修（7 年目目安）	8 月、9 月	7 時間
		管理職研修Ⅰ （係長、課長補佐）	10～1 月	3 時間 30 分
		管理職研修Ⅱ（課長）	10～1 月	3 時間 30 分

④ 資格取得の奨励

人材育成支援制度に基づき、職員自ら提案したスキルアップに資する事項について、将来に向けた職員の知識・技術習得を支援することで、職員が自律的かつ持続可能で効率的な組織運営を担えるよう人材育成を図ります。

【適用される制度の種類】

職員派遣支援制度	当協会の業務上有益であり、かつ、OJT では学ぶことができない知識や技術について学ぶために、国内他都市の視察や外部機関が実施する講習会等へ派遣し、研修させるもの
講師招聘研修支援制度	当協会の業務上有益であり、専門的・先進的な知識を有する講師を外部から招聘し、幅広く多くの職員を対象にした研修を実施するもの
資格取得支援制度	当協会の業務遂行上有益であり、かつ、身につけた知識や技術が職場の人材育成に活用できる資格の取得にかかる費用を助成するもの

⑤ OJT（実践トレーニング）の取組

上司・先輩からの指導（タテ）を基本としながら、同僚間の相互教育（ヨコ）他部署との技術・知識交換（ナナメ）により、知識・技術・ノウハウの習得を図ります。メンター（教える側）は日々の業務のなかで、教えられる側個々人に知識・技術の習得状況を確認しながらOJTを進めます。

⑥ 良好な職場環境作りへの取組

職員が安心して業務に取り組むことができるよう、超過勤務縮減、年次有給休暇の計画的な取得等を進めるマネジメントを行うほか、「横浜市健康経営認証クラスAA」の認証事業者として健康維持に係る啓発活動などを実施することで、職員のワーク・ライフ・バランスの向上や心身の健康管理の推進に取り組みます。

【令和8年度 主な健康管理・職場環境づくりへの取組】

項目名	実施予定月
定期健康診断	7～12月
予防接種（破傷風、B型肝炎）	5～12月
安全衛生委員会（よこはま）	毎月1回
衛生推進委員会（野毛山・金沢）	適宜

⑦ ファンドレイジングの基礎知識の習得

戦略的なファンドレイジングを進めていくため、「准認定ファンドレイザー」の基礎講座受講を進めます。また、有資格者の継続更新と無料勉強会の参加も毎年続けます。

（3）リスクマネジメントへの対応

緊急時および災害へ備えるため、訓練を実施するとともに、リスクマネジメントマニュアルに則り、リスクマネジメント委員会を開催します。災害時には速やかに園内の特別巡視を行い、安全確保に努めます。さらに、大規模災害時の災害混雑時でもつながりやすい災害用無線機兼電話機を、各園及び動物園調整課に配置します。

また、動物との事故防止のため、引き続き安全対策研修を年4回実施し、四半期ごとに職員の安全意識向上を図ります。過去の動物との事故事例の共有、動物舎の施錠確認の抜き打ち検査、確認作業の徹底、掲示物での注意喚起等のほか、グループワークにてヒヤリハット事例を仮定し、安全対策についての意見交換を行うワークショップ形式の研修や自身や組織に対する安全管理や安全意識の振り返りを行う研修を実施することで、安全に関する更なる意識醸成をはかります。労災を含む事故発生時には速やかに注意喚起するとともに直近の安全衛生委員会にて報告・共有し、対策の検討を行うことで事故防止に役立てます。

さらに、施設や園地管理における事故防止のために安全研修を実施します。事故・トラブル発生時には、早急な報告、原因究明と対策に努めます。

訓練名	概要	実施予定月
普通救命講習	心肺蘇生法や AED の使用方法等の訓練	6～8 月
上級救命講習	心肺蘇生法や AED、ファーストエイド等の訓練	10～3 月
防災訓練	消火活動、避難誘導、被害状況確認等の訓練	9 月
情報受伝達訓練	災害時の情報伝達訓練	9 月
動物捕獲訓練	逃亡した危険動物の追跡、捕獲訓練	1 月、2 月
安全対策研修（動物）	安全意識向上のための研修を実施 （事故事例の共有、動物舎の施錠確認の抜き打ち 検査、確認作業の徹底、掲示物での注意喚起等）	4 月、7 月、 10 月、1 月
安全対策研修（造園等）	安全意識向上のための研修を実施 （電気事故防止対策、建築物の維持管理、園地管理 の安全対策等）	下半期

3 運営及び経営の取組計画

動物園の役割「種の保全、調査・研究、環境教育、レクリエーション」に関する事業を、国内外の動物園のみならず多様な関連組織と連携、協力しながら実施し、その成果を広く世界に向けて発信します。また、令和 8 年度から繁殖センターの指定管理が 3 動物園の指定管理に加わったことにより、繁殖センターの調査・研究のノウハウを 3 動物園と共有し、種の保全を効果的に進めるとともに、繁殖センターと 3 動物園を一体運営することで、スケールメリットを活かした管理運営を行い、組織の活性化を図ります。これらにより、絶滅の危機にある野生動物の生息環境や生物多様性保全に貢献するほか、市民・来園者の皆さまに地球環境保全のための行動変容と社会改革を促します。

また、横浜市が進める「3つの ZOO みらいプロジェクト」に協力し、子どもを中心に、多様な体験や学びの場を創出するとともに、横浜の都市としての魅力やブランド力の向上に繋がります。横浜市が行う野毛山動物園リニューアルを踏まえた動物移動等の準備や休園前のイベント企画等に取り組みます。更に「GREEN×EXPO 2027」に向け、各園でポスターの設置やパンフレット・入園チケット等へロゴマークを掲載します。金沢動物園では区役所等の GREEN×EXPO 2027 関連企画と連携し、園で実施する Zoo to Wild Fes をはじめとしたイベントやノベルティグッズの配布等を行います。

また、集客宣伝活動により来園者数を増やすとともに、来園者や企業団体等との関わりをより深め、支援につなげることで、入園料収入と自主財源を増やし、より良い動物園経営を目指します。

（1）目標

① 入園者数

来園者の方々が安心して施設を利用いただけるよう、動物園運営やサービスについて多様で魅力ある体験ができる自主事業を企画実施するほか、利用者の皆様のニーズを捉えた飲食物販事業を展開します。

園名	目標人数	令和 7 年度来園者数（見込）
よこはま	105 万人	103 万人
野毛山	45.5 万人	49 万人
金沢	28 万人	27 万人

※野毛山はリニューアル工事のため、年度内に休園期間を設ける可能性があるため、目標入園者数を調整しています。

※令和 7 年度来園者数（見込）は、令和 7 年 2 月末日現在の試算です。

② 種の保全（国内外の希少野生生物種の保全の取り組み）

（公社）日本動物園水族館協会（以下、「JAZA」という。）や環境省、全国の動物園等と連携し、実効性のある保全活動に取り組むとともに、独自に海外施設等との連携を進めて飼育下個体群の維持を進めることを目標として、目安として年度単位で13種指定します。生息域外保全施設としてアニマルウェルフェアに配慮しながら、飼育動物の移動や繁殖等の飼育管理により、飼育下個体群の遺伝的多様性の保持に努めます。海外からの動物収集については、横浜市の動物園基金を活用します。

令和8年度の目標	【目標】スマトラトラ・オカピ・ライチョウ等13種について、種の保全に取り組む 【取組】主に以下について取り組みます。 ＜海外希少種で保全に取り組む種＞ ① スマトラトラ：GSMP*に沿った海外からの個体導入およびペアリングの実施（新規） ② オカピ：SSP**に沿ったペアによる繁殖（継続） ③ ヤブイヌ：EEP***に沿ったペアリングの実施（継続） ＜累代繁殖を継続するため、海外との収集、交流に取り組む種＞ ④ ヘサキリクガメ：国際血統登録者（兼EEP調整者）と協力して、同種の保全に関する各種情報の収集、及び台湾・台北市立動物園と希少動物の繁殖に協力し、友好関係を構築するため、希少カメ類の個体交換の実施。 ⑤ インドライオン：海外からの収集に向けた情報収集、国際血統登録者への飼育報告（継続） ⑥ コアラ：オーストラリアとのアンバサダー契約に基づき、飼育報告書の提出や個体導入のための継続的な調整を実施（継続） ⑦ テングザル：インドネシアとの保護協定に基づき、飼育報告書の提出や繁殖のための継続的な調整を実施（継続） ⑧ ユーラシアカワウソ：海外導入個体を用いたペアリングの実施（新規） ⑨ オオツノヒツジ：海外からの個体導入調整の実施（新規） ＜日本産希少種で保全に取り組む種＞ ⑩ ツシマヤマネコ：人工授精の取組及び繁殖生理に関するデータ収集の実施 ⑪ ニホンライチョウ：展示による普及啓発及び環境省の生息域外保全プロジェクトへの参画 ⑫ ミヤコカナヘビ：飼育下繁殖技術と科学的・獣医学的知見の集積への協力及び展示による普及啓発 ⑬ アマミトゲネズミ：飼育下繁殖技術確立および展示による普及啓発
----------	--

*GSMP：世界動物園水族館協会（WAZA）が策定する国際種管理計画

**SSP：北米動物園水族館協会（AZA）が策定する種保存計画

***EEP：欧州動物園水族館協会（EAZA）が策定する欧州絶滅危惧種計画

③ 環境教育プログラム

市民に対し、動物たちの生息環境や生物多様性保全の重要性を学び、持続可能な社会の構築を目指す環境教育プログラムを提供します。プログラムは、教育現場の要望に対応だけでなく、社会情勢も加味し、動物園としての教育目標を反映させていきます。

令和8年度の目標として、日常的なガイドに加え、より専門的な講演会・連続講座等における環境教育を目的としたプログラム参加者数（学校プログラム以外）を3園で年間30万人とします。

（2）マーケティング戦略の展開

来園者のニーズなどをふまえたマーケティング施策を以下のとおり行い、集客に努めます。よこはま動物園に集客プロモーション係を新設し、利用促進、団体誘致、集客施策企画等を強化します。また、動物園調整課と連携・情報共有し、成果のあった取組については、野毛山動

物園、金沢動物園への展開を図ります。

各園の目指すブランドイメージについては概ね確立されているため、アクセスログの分析など定量的に測定できるデータによる効果検証を行い、各園のブランディングをより一層進めます。

① 3園の現状分析と令和8年度集客に向けた方針

園名	方針
よこはま	<現状分析> 市内・県内だけでなく、都内でも3園のなかで最も認知度が高い傾向がある一方で、来訪経験においては、市内・県内に比べ都内は少ない状況にあります。ブランドイメージに関しては、動物の種類が多いことや動物の暮らす自然環境も感じられる場所として認知されていることが分かりました。 <方針> 希少動物の繁殖、展示を機会として、従来のイベントに加え、様々な環境教育プログラムなどを提供し利用促進を図ります。また、ブランディングを軸として、園の季節ごとの見どころを整理し、広告やPR、SNS等による効果的な発信により認知度や来園意向を高めます。都内をはじめとする来訪経験の少ないエリアには、沿線鉄道会社との連携などにより、相互誘客を図ります。さらに、健康保険組合等のウォーキングイベントを実施するなど、多様な利用ニーズを捉え、団体誘致施策に取り組みます。
野毛山	<現状分析> 横浜の観光地である、みなとみらいの立地と駅から歩いて行ける場所である一方で、動物園までの登り坂や施設の老朽化がネックとなっています。小さな子どもの入門の動物園としての認知度も高く、無料で親しみやすいブランドイメージを獲得しています。 令和7年度は、リニューアル先行工事が終了し、人気施設であるなかよし広場がオープンし、個人、団体共に工事以前の水準まで来園者が回復しています。令和8年度以降に計画されているリニューアル工事に向けて展示動物の搬出が始まり、動物種は減少しているが、新たに人気動物のマヌルネコが来園するなどにより更なる集客が見込まれています。 <方針> 令和8年度以降に計画されているリニューアル工事に伴う一時休園に向けて、「(仮称)リニューアル前感謝イベント」を年間通じて実施します。このイベントは、これまで回を重ねて実施されたイベントに加え、新たに物販を伴うイベントや有料参加型のイベントなど、来園者増加と収益増加を併せたイベントを含みます。 大規模なリニューアルに向けて、これまでの動物園の歴史を振り返るとともに、来園者にリニューアル後への期待を抱いていただけるよう取り組みます。
金沢	<現状分析> 横須賀・湘南エリアでの認知度、来園割合が高いものの、市内・県内において認知度、来園割合の低いエリアがあることが課題です。また、動物園に期待される肉食動物がいないことや、施設の老朽化も集客には不利な要素です。一方で、自然豊かで家族とのんびり楽しめる場所としてブランドイメージを獲得していることがわかりました。また、保全活動に力を入れていることが当園の特色です。 <方針> 希少草食動物の魅力や周年事業を行うとともに、自然公園の身近な生き物や保全活動について楽しく学べる企画を提供し環境教育の普及に努めます。園の認知度を高めるため、ポスター、チラシに加え、SNS等やWeb広告、キャラクターなどを活用し、情報発信に努めます。また、市区、各種団体、商店街等と連携し、地域での集客も図ります。

② 潜在的な来園者を想定した来園者増の取組

各園の特徴を意識した広報は、以下のとおり行います。

ア 広報

効果的な媒体の選択による情報発信により、新規ファンの拡大やリピーターの獲得、認知度の向上、誘客促進を図り、ブランディングを基軸とした戦略的な広報に取り組みます。

また、データを基にした広報活動の振返りを行います。

イ 園外PR・地域連携活動

近隣地域を中心に、動物園外において実施されるイベント等に積極的に協力することで地元の方々への動物園事業に対する理解促進、来園促進に取り組みます。また、当団体で管理する公園等の施設との連携強化に努めます。

園名	主な園外PR・地域連携活動予定
3 動物園	金沢動物園に設置した応援花壇の市民協働による維持管理、よこはま動物園と野毛山動物園での応援花壇新設により、GREEN×EXPO 2027 に向けて一層の機運醸成を図ります。
よこはま	・旭ふれあい区民まつり、緑区民まつり他への参加 ・近隣のショッピングモール、鉄道会社と連携した企画 ・里山ガーデンと連携した事業の実施 等
野毛山	・地域の各種商業組合との連携を継続してのPR活動 ・西区民まつり等区主催各種イベントへの協力 ・横浜市中央図書館、県立歴史博物館・みなとみらいの博物館施設等、近隣施設と連携した企画
金沢	・金沢まつりなど近隣の区や企業、当協会管理公園等が主催の各種イベントへの協力 ・金沢図書館と連携した企画 ・横浜市立大学等との共同企画

ウ 各種団体への誘致活動

集客プロモーション部署を新設して専従職員を配置する

ことで、各種福利厚生団体等の誘致に取り組むとともに、団体利用における多用なニーズに対応し、企画準備から当日の利用までサポートを行います。

エ 公民連携事業の実施

(株)コクヨと連携し作成したオリジナルの動物お面づくりワークショップを通して、動物について工作をしながら楽しく学べるよう取り組みます。引き続き企業等と意見交換を行い、新たな連携事業の実施に取り組みます。

また、令和6年度から行っている(株)良品計画との連携を継続し、動物デザインのハンカチの販売や連携企画等を実施し、相互誘客とともに、動物への興味・関心を深めていただくよう取り組みます。

③ 動物園の支援者を増やす取組

動物園への関心を深めることにより、動物園を応援するファン(寄付者)を増やします。各種イベントやガイド等、様々な場面を通して動物園の4つの役割を伝え、ドナーピラミッドを構成する方々の支援レベルの向上に取り組みます。動物園の支援者の方々(友の会会員、アニマルペアレント、イベント参加者等)の獲得だけでなく、ステークホルダーピラミッドを詳細に分析することにより一過性ではない包括的なファンドレイジング(戦略的な寄付募集等)を行います。

ア 潜在的寄付者を増やす取組

ホームページで寄付ページを掲載するほか、動物園友の会会報等に広告を出稿するなどのアプローチをします。また、動物ガイドやイベント開催時にアニマルペアレントや寄付の呼びかけを行うほか、園外PRの際にも周知します。さらに、特定公益増進法人である当団体に寄付した場合に認められる、税額控除等のメリットを周知、広報します。

イ 新規の寄付者を増やす取組

保全意識向上や子どもの関心、大人の知識欲に応えるプログラムの実施（大人向け連続講座：3園連携企画「魅力発見！横浜3動物園めぐり」を継続的に実施）やボランティア活動支援を行うことで、動物園への理解を深めて支援者を増やしていきます。これらの参加者に向けて、また、動物の繁殖や新規導入等の機会を捉え、アニマルペアレント制度を広く周知するとともに、寄付により改修した施設等を紹介することにより、寄付への理解を促し、新たな支援の確保を図ります。また、動物園への新たな支援の形としてショッピングサイトのほしい物リストを活用します。

野毛山動物園では、園内施設の改修等による魅力向上や、来園者の利便性向上に資する取組に活用するため、園内に設置してある募金箱のほか、カプセルトイ式の募金を行うことで、子どもでも寄付しやすい環境を提供します。

ウ リピートしてくれる寄付者を増やす取組

アニマルペアレント（動物の飼育環境改善に対する寄付）に支援いただいた方々に対し、継続的な支援が得られるよう、ニュースレターの送付や感謝の日イベントを通じて丁寧なコミュニケーションを図ります。

エ 企業からの支援を増やす取組

企業向けのセールスシート等を用い、積極的な企業へのアプローチを行うほか企業イメージアップ等の寄付メリットに関する周知・広報を行うことで資金獲得に努め、協賛企業と共に動物園の様々な取組を推進します。また、企業や公共団体からの研修依頼等にも対応し、環境教育の促進と潜在的な寄付者及び連携先の発掘に取り組みます。

オ 大口寄付者（遺贈を含む）を増やす取組

個人からの寄付や遺贈等を柔軟に受け入れ、寄付者の意向に沿って活用します。寄付や遺贈をしやすい仕組みづくりを行うことで支援者の拡大に努めます。友の会会員やアニマルペアレントなど、すでにご支援をいただいている寄付者から更にご支援いただけるよう、ファンミーティングや感謝の日を通じて動物園での取組みや寄付金等による使用用途の紹介を丁寧に行うことで理解を深めていただけるよう努めます。

④ 利用者の声を反映したマーケティング分析の取組

利用者の特性やニーズを継続的に把握し、PDCA サイクルイメージに基づき、各園のコンセプトに沿った「話題づくり」「集客営業」「広報・広告」を効果的に実施します。

ア 来園者調査・非来園者調査

3園で利用者アンケート等を行い、来園者の状況やニーズを把握し、利用促進と満足度の向上を図ります。また、これまでに実施した非来園者のWeb調査の結果を踏まえつつ、来園者調査の分析を補強すると共に、来園に向けた訴求点やブランディングの方向性を捉え、来園促進を図ります。

イ イベント等での満足度調査

イベント等の参加者の顧客情報や満足度、具体的な感想を収集することにより、効果や改善点を把握し、改善や新たな企画に活かします。

ウ 子どもの意見把握

イベント実施時のアンケート等で意見を聴取し、内容の改善に反映するなど、子どもの意見を管理運営に活かします。

エ 利用者のご意見・ご要望を伺う制度

引き続きホームページ上に「ご意見・ご要望」および「お問合せ」フォームを設置します。いただいたご意見等の内容は情報共有を行い、2週間以内に回答するとともに必要に応じて改善を図ります。

オ モニタリングによる自己評価とその改善

横浜市職員によるモニタリングを受け、各動物園及び協会本部で仕様書に定められた事項の進捗を自己評価するとともに、意見交換を行うことで業務改善につなげます。

カ 各種会議での情報共有

利用者の生の声を管理の質・来園者サービスの向上に役立てるため、職員に対し朝礼や昼礼、定例会議で情報共有を行うほか、園の管理運営に携わる委託業者等に対しても以下の会議で情報共有し、課題解決に取り組みます。

会議名称	内容
業務の質向上委員会	窓口案内や警備、清掃等の委託業者の従業員が多いよこはま動物園では、適宜情報共有を行うほか、課題の改善策を検討する委員会を開催します。野毛山、金沢は都度情報共有、協議を実施し課題改善に取り組みます。
営業月次報告会	飲食、物販施設事業者と連携し、ニーズを捉えた商品開発、食材等の地産地消の推進等サービスの改良に取り組みます。
園地管理業者ミーティング	園地管理業務の委託業者との情報共有、情報交換と各シーズンの維持管理業務の調整等を図ります。
万騎が原ちびっこ動物園飼育定例会	管理運営を委託している業者との情報を共有するほか、課題の改善策を協議し、課題改善に取り組みます。（野毛山：1回／月）

キ お客様からの意見、要望も取り入れながら行う、来園者サービス向上への取組

主な取組
レンタルサービス、キッチンカー、補助犬対応、デジタルマップ（多言語）、筆談対応、オリジナルグッズ販売、キャッシュレス対応、電子チケット対応、モバイルバッテリーの貸出、園内バスの運行 等

（3）動物園マネジメントの取組

① 新たな社会的要請の発生に対する取組

危機的な自然環境の悪化や生物多様性の損失、新型コロナウイルス感染症の流行などを受け、SDGsやNP、NbSの達成、そしてウェルビーイングの実現や、ワンヘルス、インクルージョンの推進に取り組みます。さらに、2022年の博物館法改正を受け、社会教育・文化的役割をより充実させていきます。また、環境に配慮した施設の維持管理等の様々な事業を多様な主体と連携して行うことで、SDGs達成に向けた取組を進めます。該当するSDGsの取組は以下のとおりです。

ア 環境分野

取組	主な取組
生物多様性保全への貢献	・動物園における種の保存（P. 21～22 参照）
環境負荷の低減に向けた取組	・グリーン電力の導入 ・廃棄物の削減（ゾウ糞のたい肥化、業者排出のコーヒー滓を動物舎敷材に利用）、公園の剪定枝を一部飼料として活用 ・ミズアブを利用した動物糞の堆肥化について大学と共同研究 ・市内事業者から出た不要食材を動物飼料へ活用 ・園内 MAP の自由配付終了によるペーパーレス化

イ 社会分野

取組	主な取組
多様な教育普及	・学校教育プログラムの実施（P. 16-17 参照） ・保全意識向上を図るプログラムの実施（P. 17-18 参照）
市民参加と市民協働による地域の活性化	・動物園への市民参加を促す多様な事業の展開（P. 10 参照） ・ボランティアが活動する管理運営の推進（P. 15-16 参照）
誰もが安全・安心・快適に利用できる施設の管理運営	・防災訓練・動物捕獲訓練等の実施（P. 6 参照） ・施設等の維持管理計画に則した施設点検等（P. 26-27 参照） ・ドリームナイト・アット・ザ・ズーの実施（P. 14 参照）

ウ 経済分野

取組	主な取組
地域事業者との連携による地域経済の活性化	・市内生産農家から動物飼料である青草、ユーカリ、木の葉等を栽培・調達 ・飲食・物販事業者と連携した食材等の地産地消の推進

エ ガバナンス

取組	主な取組
多様な主体とのパートナーシップによる事業推進	・環境：WAZA、JAZA、大学等との連携 ・社会：学校、地域団体、ボランティア等との連携 ・経済：市内生産農家等との連携

② 自主事業の取組

季節や各動物園の特性を生かした自主事業を行い、3動物園の利用促進を図ります。野毛山動物園では、令和8年度以降に計画されているリニューアル工事に伴う一時休園に向けて、「(仮称)リニューアル前感謝イベント」を、各園では、SDGsや生物多様性のテーマを取り入れたイベント、野生生物保全に向けた取組などを多様な団体と連携を図りながら実施します。

一部の企画を有料で実施し、来園者が希少動物の生息地の保全活動に参画できる場の提供を行います。さらに大人向けの講演会などのコアなファンの知識欲を満たす企画については有料化することで経営資源の1つとして戦略的に取り組みます。

また、2027年に開催されるGREEN×EXPO 2027と連携して、博覧会と動物園に共通する

「生物多様性の保全」等をテーマとするイベントを開催し、市民の興味喚起と相互誘客を図ります。

ア 3 動物園連携での取組

園名	イベント名	概要
3 動物園	夏の猛暑対策	ひんやりスポットを園内に設置するなど猛暑対策を実施
	よこはま夜の動物園	園内をライトアップして夜間開園し、関連イベントを実施 野毛山動物園では、動物の生息地に絡めた音楽パフォーマンスを実施
	ドリームナイト・アット・ザ・ズー	社会貢献活動として、障害のある子どもたちとその家族を夜の動物園へ招待
	動物感謝祭	3園で死亡した動物の慰霊碑がある野毛山で、3園の動物の誕生、長寿、死亡に関するパネル展等を実施

イ 各動物園の特徴、地域特性を生かした取組

園名	イベント名	概要
よこはま	ズーラシアガーデンパーティー	テーマに合わせた園内装飾と飲食ブースを設置したガーデンパーティーを実施（4月、令和9年3月）
	ズーラシアフェス！	ズーラシアで飼育している動物をテーマに、関連したパネル展や講演会、楽しく学べるイベントを実施（10月）
	地域・沿線・企業連携企画	近隣商業施設での企画展や鉄道会社とのキャンペーン等、相互誘客のための連携企画を実施
	カムカムどうぶつえんフェスタ	NPO法人や企業との連携による動物や人の健康について楽しく学べるイベントを開催（11月）
	うんち展	動物の糞をテーマに動物の食性や消化の仕組みを紹介する企画展を実施
	村田園長のとっておき写真展	村田園長が園内で撮影した「とっておき写真」を展示した企画展を実施
野毛山	開園感謝祭	開園記念日に開園記念ノベルティを先着100名に無料配布
	ミュージアムミッション	横浜、山手、みなとみらい地区のミュージアムを巡るクイズラリー
	中央図書館連携企画	動物や環境をテーマとした相互の特性を生かした企画を実施
	有料ワークショップ	なかよし休憩所など屋内施設も活用し、年4回程度、親子（未就学児可）が楽しめる企画などの有料ワークショップを実施
	【新規】（仮称）リニューアル前感謝イベント	野毛山動物園のこれまでの歴史を振り返るパネル展に加え、リニューアル工事に伴う展示終了予定の獣舎に入れる特別ツアーやバックヤードツアー、ガイドなどを実施（有料イベント含む）
	【新規】（仮称）のげやまマルシェ	野毛山動物園で飼育されている動物をモチーフにした雑貨販売ブースを設置する他、動物の生息地に絡めた音楽パフォーマンスを実施
金沢	プロジェクトンマッピングの投影	「ナイト金沢ZOO」及びドリームナイト・アット・ザ・ズー実施日に、オリジナルプロジェクトンマッピングを投影
	Save the animals～	絶滅危惧種をテーマに市内の環境保全団体などと協働し、体験型のイベント開催や展示ブースの出展、飼育員の特別ガイドなどを実施
	Zoo to Wild Fes Autumn ～人と自然の関り～	環境保全（特に人と自然の関りについて）をテーマに、市内の環境保全団体等と協働した体験型のワークショップ、展示ブースの出展、関連商品の販売等を実施
	動物園の野良しごと	SDGsを意識しながら動物園で実践している環境保全活動を、わかりやすく普及するプログラムを実施

	Zoo to Wild Fes Spring ～楽しく SDGzoo～	企業や団体と連携し、わかりやすく SDGs を紹介するクイズやワークショップ、展示ブースの出展、関連商品の販売等を実施
	【新規】コアラ来園 40 周年イベント	令和 8 年度に迎えるコアラ来園 40 周年のイベントとして、コアラをテーマとしたワークショップ・グッズ販売等を実施

ウ 動物とのふれあいプログラム

各動物園で、動物福祉に配慮しながらふれあい体験を実施します。

園名	場所	プログラム
よこはま	ぱかぱか広場 ※	ひき馬体験(有料)
		自然体験林でひき馬体験(有料)
		馬の飼育員になってみよう(有料)
		おやつ体験(有料)
	バードショー広場	バードショー
野毛山	なかよし広場	小動物ふれあいプログラム（事前予約制）
金沢	ほのぼの広場	ヤギさんのおやつタイム

※ぱかぱか広場のプログラムのみ自主事業

③ 市民主体のボランティア活動の支援

企業、学校、市民団体等のボランティア活動の支援を推進し、市民の活力ある暮らしの機会創出や、地域の活性化に貢献します。

園名	主な取組
よこはま	- 動物のガイドや工作等の実施 - 協賛企業によるボランティア活動（花壇の設置、イベント時の園内案内対応等）
野毛山	- 動物ガイドやGW イベント（頭骨レプリカを使ったガイド）等の実施 - リハビリテーターによる身近な生き物について学ぶパネルの掲示、バードウォッチングイベント等の実施
金沢	- 動物ガイドやイベント補助等の実施 - 大学と連携し、大学生によるガイドやイベント補助、生物調査等の実施 「推進団体」「推進リーダー」等と連携し、国際園芸博覧会応援花壇を設置し、市民参加により管理 - 植物区の植栽管理の実施

（４）教育普及業務

「伝える」相手の年齢、属性等を意識し、様々な人を対象とした、持続可能な社会の構築に向けた行動変容を促す教育普及プログラムを提供します。実施にあたっては、3園の展示動物種や立地を活かし、目的や対象を明確にした教育活動を展開すると共に、実物観察を基本とし、加えてオンラインでの授業やデジタル教材の活用により、現地観察と遠隔学習を補完的に提供します。一部のプログラムでは、参加費を徴収し運営費に充てるほか、収益の一部を生息地での保全活動へ寄付するなど、参加者が保全活動に直接または間接的に関与できる仕組みを構築します。

また、博物館相当施設として、各園の標本の収蔵・記録・利用の現状を整理し、管理方法や記録様式を見直し、効果的な標本活用の基盤整備を進めます。

デジタルアーカイブにおいては、動物園ならではの資料の公開に向けた準備を進めます。

① 学校教育プログラムの推進

ア 学校教育プログラム

	プログラムタイトル	概要	よこはま	野毛山	金沢
来園プログラム	① どうぶつ園のじゅうい	獣医の一日を写真で紹介	●	●	●
	② どうぶつの赤ちゃん	動物たちの子育てやその違いについて解説	●	●	●
	③ 動物たちにズームイン	クイズを通じた動物の解説	●	●	●
	④ 飼育員の一日	飼育員の1日の仕事を解説	●	●	●
	⑤ ズーラシアの飼育員	動物園の役割や飼育員の仕事内容等を解説	●		
	⑥ 動物福祉の取組	よこはま動物園や動物福祉の取組等を解説	●		
	⑦ 動物園の概要	動物園の役割やよこはま動物園の特徴等について解説	●		
	⑧ オンライン de レッツスタディズーラシア	横浜市外の学校向けに、①～⑦のプログラムをオンラインで実施	●		
	⑨ しっぽの使い方	動物のしっぽの使い方を紹介	●		
	⑩ オスとメスの違い	オスとメスの体の違いを解説	●		
	⑪ 色々な赤ちゃん	おとなと比較し、赤ちゃんだけの特徴の解説	●		
	⑫ 獣医師のお仕事	写真を用いて動物の病気やケガの解説	●		
	⑬ 固有種が教えてくれること	金沢動物園で飼育展示している日本の固有種についての解説			●
	⑭ 動物のほねときん肉	骨格標本と写真を見せながら、動物の骨と筋肉についての解説			●
	⑮ 虫はかせになろう	昆虫の説明と身近な生き物の観察			●
	⑯ どうぶつとSDGs	動物園の社会的役割やゾウの飼育方法を題材に、動物園でのSDGsの取り組みを紹介			●
	⑰ キリンのおやつガイド	木の葉を食べるキリンの観察と飼育員の解説			●
	⑱ ゾウの健康大作戦！ガイド	ゾウが健康で長生きするための飼育の工夫を、飼育員がゾウを観察しながらガイド			●
	⑲ 獣舎バックヤードツアー	動物の寝室と飼料庫（エサ置き場）に案内し、解説	●		
	⑳ 職業体験	掃除や餌の準備、接客等の体験	●	●	●
	㉑ 職場見学	環境問題に取り組む動物園の役割の紹介	●	●	●
	㉒ 職業インタビュー	スタッフに動物園の仕事についてのインタビューに対応	●	●	●

イ 学校教員と内容を相談しながら作り上げるプログラム

動物園への来園回数により内容は異なりますが、教員、児童の要望に応じてオリジナルでの授業を行います。

	プログラムタイトル	概要
3園	動物園学習	1回の出張もしくは来園で実施するプログラム
	連携授業	2回以上（1回以上の来園が含まれる）連続して実施するプログラム

② 環境教育プログラム

動物ガイドやイベントによる環境および生物多様性保全意識の普及と市民の行動変容を促す取組を行います。職員に対しては環境や生物多様性保全に関する研修の実施や生息地の視察等により、保全意識の向上を図ります。また、世界○○の日などの開催にあたっては、様々な保全団体と連携し種の保全意識の普及を行うとともに、募金を通じて保全への参画を促せる企画を実

施します。その効果についてはアンケート等により評価します。

園名	プログラム名	概要
3園	飼育の日	4月19日（シイク）に合わせ、飼育係の仕事を通じて動物園への理解を深める普及活動の実施
	世界〇〇の日	World Giraffe day 等、世界と一体となった保全に向けた普及活動（ガイド・募金等）の実施
	3園連携大人向け講座	大人の知的好奇心を満たす連続講座
よこはま	SOS 展	人間が野生動物に与える影響等を学べる企画展を実施
	ズーラシアスクール	小学4～6年生を対象に、連続講座を通して、動物や人、環境について考える総合力を養うことを目的とした企画を実施
	ズーラシアセミナー	社会人向けに飼育員や獣医師による動物や動物園、自然への理解を深めるセミナーを開催
	コウノトリまつり	IPPM-OWS（コウノトリの個体群管理に関する機関・施設間パネル）との共催で、コウノトリの生態や保全の取組みについて楽しく知ってもらうことをねらいとしたイベントを開催。コウノトリの保全に関わる自治体や団体などのブース出展と、スペシャルトークなどの関連イベントを実施
野毛山	中央図書館連携企画（再掲）	動物や環境をテーマとした相互の特性を生かした企画を実施
	野毛山動物園でバードウォッチング入門	リハビリテーターとの協働によるバードウォッチング講座を通して身近な生き物について考える企画の実施
	GW イベント「The ホネ」展	野毛山動物園ボランティア「Zoo のげやま探検隊」による企画展を実施
	動物園セミナー	外部講師による動物に関する講演会を実施
金沢	Save the animals	絶滅危惧種をテーマに市内の環境保全団体などと協働し、体験型のイベント開催や展示ブースの出展、飼育員の特別ガイドなどを実施
	環境月間パネル展	金沢動物園で展示している野生動物の生息地を取り巻く環境や、その保全活動を紹介するパネル展を開催
	夏休み企画展「身近ないきものを知ろう」	日本産カブトムシやクワガタムシ、身近な昆虫や生きものを「身近ないきもの館」で展示、園内各所では生息環境や生きものたちの紹介パネルを掲示し、身近な生きものとその生息環境についてわかりやすく学べる企画展を開催
	Zoo to Wild Fes Autumn ～人と自然の関わり～	環境保全（特に人と自然の関りについて）をテーマに、市内の環境保全団体等と協働した体験型のワークショップ、展示ブースの出展、関連商品の販売等を実施
	Zoo to Wild セミナー	展示動物をテーマに、野生動物保護や地球環境保全等を学ぶ講演会と動物観察会を実施（中学生以上大人向け）
	Zoo to Wild Fes Spring ～楽しく SDGzoo～	企業や団体と連携し、わかりやすく SDGs を紹介するクイズやワークショップ、展示ブースの出展、関連商品の販売等を実施
	動物園の野良しごと	SDGs を意識しながら動物園で実践している環境保全活動をわかりやすく普及する、体験プログラムとパネル展示を実施

その他、一般来園者を対象に、動物たちの生息環境や生物多様性保全の重要性を伝える通年プログラム5種を実施します。

園名	プログラム名	概要
3園	①動物ガイド	飼育員による動物の生態・行動に関するガイドを実施 ・飼育員のとおきタイム（よこはま） ・わくわくタイム（金沢）等
よこはま	②ガイドツアー	動物の食性について学べるガイドツアーの他、動物の解説を聞ける園内案内（ウォーキングツアー）を実施
	③ズーラシアどうぶつ教室	動物たちの裏話や動物に関連するクイズや工作等を行うワークショップや講義を実施
	④バードショー	様々な鳥の能力を知ることができるショーを実施
野毛山	⑤ガイドツアー	動物のエサを準備する台所等を見学するガイドツアーの他、動物病院を見学しながら獣医の解説を聞けるツアーを実施

③ 標本管理・デジタルアーカイブ

3園共通の視点で標本管理とデジタルアーカイブの整理に着手し始めます。標本の所在や記録状況など現状を把握し、教育的な活用を主目的とした管理ガイドラインの作成を進めます。また、デジタルアーカイブにおいては、動物園ならではの資料を公開することを目標として、対象や情報項目、保存方法の検討を進め、公開に向けた段階的な土台づくりを行います。

4 動物の飼育管理計画

（1）飼育現場での取組

世界の野生動物の現状への理解を深めてもらえるよう、動物の生態や健康維持、アニマルウェルフェアに配慮した飼育管理に取り組むほか、飼育動物の記録や飼料の調達、給餌等を行います。飼料となる青草、木の葉、ユーカリなどの栽培・生産については、市内生産農家等に依頼し、安定的な供給の確保を図るとともに、地域の活性化に取り組みます。飼料となる枝葉については、安定供給に向けた体制づくりを進めます。野毛山動物園リニューアル計画に基づく各種協力、飼育終了種における出園や整理等、リニューアル後における飼育展示開始種の事前導入及び各種調整等に適宜取り組みます。

① アニマルウェルフェア向上のための取組

3園で飼育する動物に対して、科学的な根拠に基づき、3動物園における良好なアニマルウェルフェアを最大限に高める取組を推進していきます。評価については、JAZAの制定したアニマルウェルフェア基準をベースに令和7年度に制定した、当協会のアニマルウェルフェア委員会規程に基づき、アニマルウェルフェア評価を実施し、各動物園、当団体、横浜市が一体となってアニマルウェルフェア向上に取り組めます。また、老朽化した施設の対応については、横浜市と協議を継続します。

ア エンリッチメントの取組

飼育動物の多様な行動を引き出す飼育環境改善(エンリッチメント)の取組にあたっては、基礎理論に基づいた計画シートを作成し、効果検証を行い、3動物園で共有し良好なアニマルウェルフェアを確保します。

園名	主な取組
よこはま	・チーターやニホンザルの探索、採食行動のパターンを増やすことを目的としたフィーダーの設置 ・シマウマやクロサイなどの蹄の保護を目的としたゴムマットの設置や床材の工夫、エランドやキリンのブラッシングによる換毛期の換毛補助のために清掃では使用しなくなったブラシや木の枝の先を利用
野毛山	・チンパンジー、フサオマキザルなどの霊長類の種本来の行動を誘発することを目的に、止まり木や遊具の提供等を実施
金沢	・草食獣に保安や生物多様性保全を目的とした林地管理で伐採した樹木や竹を給与し、採食および行動のエンリッチメントを促進する

イ ハズバンダリートレーニングの取組

無麻酔での採血等、動物福祉に配慮した健康管理（ハズバンダリートレーニング）の取組にあたっては、計画シートを作成し、効果検証を行うことにより、動物福祉を向上していきます。また、種の適正に応じてスパイダーモデルに基づくトレーニングを取り入れます。

園名	主な取組
よこはま	・クロサイの採血等のトレーニング ・ターキンやオカピの蹄の管理等のトレーニング
野毛山	・キリン、グレビーシマウマ、チンパンジー等で非侵襲的な方法での検査等
金沢	・インドゾウの四肢を中心としたケアのためのトレーニング ・オカピの健康管理を目的とした削蹄等

ウ 老齢個体に配慮した飼育管理の取組

動物の QOL (Quality of life) を第一に考え取り組みます。

園名	主な取組
よこはま	・高齢のライオンやリカオン等の体調に応じた環境の提供 ・高齢動物に合わせた餌の見直しや給与方法の工夫等の改善
野毛山	・老齢ツキノワグマの箱入れ馴致によるよこはま動物園への移動予定
金沢	・老齢オカピの健康管理を目的とした削蹄・環境改善などのケア ・ベアードバックに対するマッサージによる横臥を活用した非保定での採血

② 飼育現場での努力や意識向上に資する取組

ア 動物舎の維持管理

動物舎及び展示場の管理は、日常管理として施設の安全点検を行い、小破修繕を適宜実施します。また、施設の長寿命化計画に準拠し、共通のフォーマットを用いて統一基準で管理し、市に報告することで大規模修繕計画にも反映させます。

項目	令和8年度の計画
施設の長寿命化	当団体で年に1回調査を行い、横浜市に報告します
展示の魅力向上	展示場周辺の管理職も含めた定期的な安全確認および展示の魅力向上に向けた改修案の提案を行います※アニマルケアレントで集まった寄付金等も活用します

イ 動物園水族館事業、博物館事業への貢献

JAZA や関連団体の役割を以下のとおり担うことで、国内での動物園水族館事業、博物館事業の潮流を把握するとともに、事業の推進に貢献します。また、横浜市と連携して令和8年度中の認定博物館への登録を目指すとともに、博物館にふさわしい施設としての条件を検討・整備していきます。

団体	役割	
JAZA	会長	
	総務委員会	アニマルウェルフェア部長
	教育普及委員会	普及啓発部員
	生物多様性委員会	種別計画管理者等 (P. 22 参照)
神奈川県博物館協会	理事	
	自然科学部会	幹事

ウ SDGs への貢献

青果のB級品のほか、横浜市と連携したフードロス対策、里山ガーデンやEXP0会場整備から出る剪定枝を飼料として利用するほか、通常は廃棄されるコーヒー豆の外皮等を獣舎の床材として使用する取組や、ゾウ糞を堆肥化し、園内や当協会管理公園の花壇に活用するなどSDGsへの貢献を進めます。また、こうした取り組みについて積極的に情報発信を行います。

エ 安全管理

動物の脱出は、来園者や地域住民に大きな危険を及ぼす、特に避けるべき重大リスクであることを日頃から意識し、予防対策を講じます。安全対策研修は年4回実施し、指差喚呼の徹底を図るなど事故予防意識を醸成します。また、飼育動物の脱出を想定した来園者避難誘導訓練及び動物捕獲訓練を年1回実施します。日常の飼育業務で起きたヒヤリハット事例を重大事故の入口と捉え、ヒヤリハット報告書を作成し、職員間で共有、振り返りを行い、類似案件の発生防止に努めます。

③ 計画的な繁殖管理

重点保全種の繁殖について、繁殖センターとも連携し、以下の種(仮)について取り組みます。重点保全種については、令和8年度に向けて横浜市と協議によって、確定します。繁殖に取り組む準備を進める種については、国内、海外からの情報収集等に努めるほか、3動物園共通の出産計画書・報告書を作成します。

海外 保全種 (26種)	<繁殖に取り組む種> テングザル、アカアシドゥ克蘭グール、ボルネオオランウータン、スマトラトラ、ウンピョウ、チーター、ホッキョクグマ、ヤブイヌ、クロサイ、インドサイ、アラビアオリックス、オカピ、オオアフリカ象、フランソワルトン、カンムリシロムク、カグー、カンムリセイラン、ハウシャガメ、ハミルトンガメ、ヘサキリクガメ、インドセタカガメ、キバラクモノスガメ
	<繁殖に取り組む準備を進める種> インドライオン、マレーバク、ユーラシアカワウソ、セスジキノボリカンガルー
国内 保全種 (6種)	<繁殖に取り組む種> ツシマヤマネコ、アマミトゲネズミ、ライチョウ、ミゾゴイ、リュウキュウヤマガメ、ミヤコカナヘビ
横浜 保全種 (2種)	<繁殖に取り組む種>ムカシツチガエル、ミヤコタナゴ

④ 動物の適切な管理

ア 防疫・衛生管理

飼育員と獣医師が密に連携し、疾病の予防に取り組むことを基本とし、日々の細かな観察及び専門的な知識と蓄積された経験に基づき、早期発見早期治療による健康管理を行います。治療にあたっては、最先端の獣医療を提供するオンデマンドサービスを活用することで、日々の外科的な処

置等に役立てています。防疫面でも引き続き、高病原性鳥インフルエンザ、豚熱の感染防止に努めます。

項目	主な取組
オンデマンドサービスの活用 (Veterinary Medical Network)	治療前に動画で症例を確認することにより、日々の外科的な処置等に役立てます
新型コロナウイルス感染症、高病原性鳥インフルエンザ、豚熱防疫対策	感受性の高い動物への感染防止対策を実施するとともに、「横浜市立動物園での高病原性鳥インフルエンザ防疫対応指針」「市立動物園の豚熱（CSF）防疫対応指針」に基づき防疫に努めます
疾病予防管理・定期健康診断	年間スケジュールに沿って実施します
獣医師定例会	年に3回程度、3園の獣医師が直近の症例や最新研究などを情報交換し、知見を深めます
診療・治療記録の共有	検査・治療について一元的に記録する様式を揃え、3園同一様式で記録するようにし、定期的に記録内容を共有します

イ 3 動物園一体運営を活かした飼育管理

危険分散・老齢個体の適切な飼育等の視点から、分散飼育や動物の移動を行います。なお、キリン、レッサーパンダ等、複数の園で飼育している種については、JAZA の繁殖計画等状況に応じて個体の交換等を実施し、種の保全に取り組みます。また、野毛山動物園リニューアル工事に伴い、飼育動物の一部をよこはま動物園に移動し管理します。

(2) 保全に貢献する取組

① 世界的に評価されうるといえる域外保全への取組

ツシマヤマネコにおいて国内初の取組として成功した腹腔鏡を用いての人工授精は、引き続きツシマヤマネコ等ネコ科動物で取り組みます。

② JAZA 等、国内外の保全に関わる機関、団体等と連携した保全への取組

当団体が多くの実績や技術を有する種については、率先して国内外の動物園関係団体との連携を図り、保全活動に努めると共に、イベントや講演会等を通じた募金などで域内保全への貢献を進めます。また、JAZA 内の生物多様性委員会他の役割を担うことで、国内での保護・繁殖に積極的に携わります。

	役割	動物種等
国内	JAZA	食肉類（類別事業調整者）
	種別計画管理者	ユーラシアカワウソ、インドサイ、ホウシャガメ
	個体群管理者	オオカンガルー、ヤブイヌ、アラビアオリックス、ハミルトンガメ、インドセタカガメ
	専門技術員	コアラ、フランソワルトン、スマトラトラ、マレーバク、ツシマヤマネコ、アジアゾウ、クロサイ、グレビーシマウマ、ニホンカモシカ、コツメカワウソ、アマミトゲネズミ

また、連携協定を締結した海外の地域団体や動物園等とも引き続き情報交換等を進めていきます。

項目	主な取組
台北市立動物園との連携	台北市立動物園との覚書に基づき、動物交換等の調整を行います
タイ王立動物園機構（ZPO）との連携	ZPO との覚書に基づき、動物交換等の調整を行います
世界動物園水族館協会（WAZA）との連携	WAZA の会員として、年次総会へ参加して情報共有に努めるほか、WAZA の管理する保全計画である種管理計画に協力して、野生動物保全に努めます

③ 域内保全と連携した取組

JAZA が環境省と締結した「生物多様性保全の推進に関する基本協定書」に基づき、ツシマヤマネコ、ミヤコカナヘビとトゲネズミ類の飼育・繁殖技術等の確立を目指し、動物園での生息域外保全を行います。また、国内外のステークホルダーと連携した保全協力事業も実施します。

項目	動物種	主な取組
環境省の保護増殖事業への協力	ツシマヤマネコ（よこはま）	人工繁殖に取り組むとともに、繁殖生理に関するデータ収集を行います
	ニホンライチョウ（金沢・繁殖センター）	展示による普及啓発に取り組むとともに、人工授精等の繁殖補助技術の確立に取り組みます
	ミヤコカナヘビ（野毛山）	飼育下繁殖技術と科学的・獣医学的知見の集積に協力するとともに、展示による普及啓発にも取り組みます
トゲネズミ類生息域外保全事業への協力	アマミトゲネズミ（金沢）	飼育下繁殖技術確立に引き続き取り組むとともに、展示による普及啓発に取り組みます
コウノトリ生息域外保全事業への協力	コウノトリ（よこはま）	IPPM-OWS の繁殖計画に則り、個体の移動や飼育、繁殖技術の向上に努めます
域内保全活動事業支援	オカピ（よこはま） その他動物（3園）	現地で活動するオカピ保全プロジェクトへ支援金を送付します。また、世界オカピの日等に合わせた域内保全活動の紹介等普及活動に取り組みます。その他動物においても適宜、域内保全活動の紹介、募金活動等、普及啓発に取り組みます。
インドネシア政府との保護協定	テングザル（よこはま）	保護協定の更新を行うとともに、展示による普及啓発にも取り組みます

④ 地域の生物多様性保全

横浜地域の生物多様性保全の向上を目的として、希少な生物の飼育繁殖による系統保存や調査研究や、管理地内の環境整備活動を行います。また、それらの知見や動物園内の環境を題材に普及啓発を実施します。

対象種または地域	取組の内容
ミゾゴイ 試験放鳥（繁殖センター・金沢） 展示・普及（野毛山）	ミゾゴイの試験放鳥及び追跡調査を行います。また、展示による普及啓発に取り組みます
ミヤコタナゴ （金沢・繁殖センター）	関係機関・市民団体と連携し系統保存及び金沢動物園では、展示による普及啓発に取り組みます
市内系統ミナミメダカ （金沢）	
ホトケドジョウ（金沢）	市民団体と連携し域内保全及び飼育展示による系統保存と普及啓発に取り組みます
ムカシツチガエル （繁殖センター・金沢）	飼育繁殖及び金沢での展示による普及啓発を行います
ヤマアカガエル等 （よこはま、金沢）	園内での生息調査を実施します
オガサワラカワラヒワ （繁殖センター）	近縁種にカワラヒワを用いたカワラヒワ類の飼育技術の開発に取り組みます

⑤ 傷病鳥獣の受入、治療および野生復帰

市内及び神奈川県下で保護された野生傷病鳥獣は安全性の確保と効率的な受け入れを実施

するため金沢動物園で集約して行い、診察、治療、野生復帰のためのリハビリテーション等を行います。野生復帰できない個体については、その個体の健康状態に配慮したうえで、動物園での展示、ガイド等の教育普及活動、大学等と連携した研究等を行います。

⑥ 保全のための人材育成に向けた取組

職員の意識向上を図るため、野生動物保護研修や動物園学研修を実施します。また、希少動物の域内外保全推進のため、生息地での研修や調査、視察等を検討します。加えて、地域の生物多様性保全を目的に園内での環境整備活動を実施し、その活動を通じた OJT や保全管理研修により職員の技術開発を行います。

さらに、来園者をはじめ SNS 等を活用することで、多くの方々へ広く情報を発信します。

(3) 調査・研究などに対する取組

「横浜市立動物園における動物福祉（アニマルウェルフェア）規程」に基づき、調査・研究の推進とアニマルウェルフェアの維持向上等を両立する計画を策定し実行します。また、大学や企業等の外部組織との連携や、適切なテーマを設定した研究の実行等、職員が目標を定め調査・研究にあたるよう、人材育成に努めます。さらに、研究成果は市民向けシンポジウムの開催や論文投稿等広く公開し、市民の動物園への理解を深めます。

① 大学等外部機関との積極的な連携

研究機関等との共同研究を通じて、効果的な研究を進めることができるよう取り組みます。

項目	指標
京都大学・日本大学・関東学院大学との研究協定における共同研究数	年 3 件以上
その他大学等研究機関との共同研究数	年 10 件以上

② 研究発表・論文投稿

調査・研究で得られた成果等を 3 園の職員間で共有するため、飼育研究会を各園で開催します。顕著な成果については、学会等での発表や論文投稿に取り組みます。

項目	指標
各園飼育研究会の開催	各園毎月 1 回
JAZA 主催 関東東北・北海道ブロック又は全国動物園水族館技術者研究会への参加	年 3 回以上

③ 研究成果の市民、来園者等への積極的な発表や還元

研究成果については、市民、来園者等の方々に向けた情報発信を通じて、動物園の役割の一つである調査研究についての理解促進を図ります。

項目	指標
動物園関係者以外も参加できる研究会・学会での発表	年 3 件以上
主要な研究成果の HP での公開	年 1 件以上
研究会誌の発行	年 1 回

(4) 繁殖センター事業

令和 8 年度から繁殖センターの指定管理が 3 動物園の指定管理に加わったことにより、3 動物園と繁殖センターとが効果的に連携し、希少野生動物の生息域外保全に取り組みます。横浜市や神奈川県内など地域に生息する希少動物の生息域内保全に努めると共に、3 動物園と連携し生物多様性保全の啓発を行います。また、野生生物保全の研究施設として、3 動物園と連携し、内分泌学研究や雌雄判別等の遺伝子解析等に取り組みます。さらに、繁殖セン

ターを中心に科学研究助成金等の研究費獲得を目指し、文部科学省が指定する学術研究機関の認定申請を進めます。

① 希少野生動物の飼育繁殖及び保全の取組（生息域外保全）

国内外の希少な野生動物の生息域外保全活動と海外交流事業の推進に取り組みます。

主な取組	希少動物種保全	マレーバク・コンゴクジャク・ホオアカトキ・ニホンライチョウ・ムカシツチガエル・アマミトゲネズミ 等
	海外交流事業	カグーおよびオオミカドバト（ニューカレドニア）・カンムリシロムク（インドネシア）

② 希少動物の保全に関する調査・研究の推進

3 動物園や岐阜大学、日本大学等と連携し、生物多様性保全を目的とした研究を推進するとともに、JAZA の配偶子バンク事業に協力します。また、学術研究機関の認定申請を進め、研究費の獲得に取り組みます。

主な取組	配偶子の凍結保存、性ホルモンの分析、鳥類の雌雄判別、近縁関係の解析、亜種関係の解析
------	---

③ 普及啓発推進

調査・研究の取組等を積極的に市民へ伝え、種の保存に関する普及啓発に取り組みます。一部のプログラムは参加費を徴収し、経営資源とします。

主な取組	施設見学会、学校等の見学対応、科学スクール 等
------	-------------------------

④ 繁殖センター特有の施設・部品の維持管理

様々な研究・実験等に使用する特殊な施設や機器の適切な維持管理・新規導入を行います。

5 施設等の維持管理計画

（1）施設管理

飼育職員と施設職員が連携を徹底し、効果・効率的な動物舎、展示場の維持管理を行います。また、建物や電気・機械設備等は安全と機能維持を重視した維持管理を行うと共に、外壁、窓ガラス、トイレ等の日常清掃、定期清掃を行い、衛生と美観を確保します。

園名	主な取組
3 園	・ 照明の LED 化の推進 ・ 適正なエネルギー（電気・ガス等）、水道（上水・雑用水）使用のマネジメント
よこはま	・ 空調・自動ドアなど獣舎空調・自動ドアの修繕による飼育環境の確保の推進 ・ 専用水道としての安全な上水の供給
野毛山	・ リニューアル計画に即した施設の修繕等の実施
金沢	・ 獣舎空調等の修繕による飼育環境の確保の推進

また、実施したものについては、月 1 回の報告書を横浜市へ提出します。

項目	指標
月間作業計画	月 1 回策定
管理報告書	月 1 回報告
マニュアルの策定、見直し	不具合あれば随時見直し

(2) 園地及び遊具等の維持管理

日常の巡視・清掃を基本とし、定期の点検・清掃や機密・臨時点検を組み合わせることで予防保全に努めます。また、災害時には、特別巡視・点検によって迅速な被害確認と早期の応急復旧に努めます。その他、園地の特徴や危険箇所等を記載したハザードマップを作成し、管理に活用するとともに、災害時や不具合の発生時の来園者の安全確保や早期修繕の行動手順をマニュアル化し活用します。

園名	主な取組
よこはま	・自生植物に配慮した草刈り ・遊具の安全管理
野毛山	・バラ園の管理について、剪定、除草、施肥、花がら摘み等の定期的な実施 ・遊具の安全管理
金沢	・ヤマユリやエビネ等指標種を設定し、保全管理計画に基づく順応的管理の実施 ・危険木など樹木の安全管理の実施 ・遊具の安全管理

点検体系	実施予定月
公園施設点検・遊具点検（通常点検 3 回、詳細点検 1 回）	5 月、8 月、11 月、2 月
日常点検	毎日
定期点検	各設備の法定点検日
臨時点検・緊急点検	適宜

(3) 樹木・植栽等の育成管理

市の維持管理基本水準書に準拠し、かつゾーン毎に植栽の管理方法やポイントを定めた「植栽管理マニュアル」や、「植物年間作業計画」を作成し植栽管理に取り組みます。

6 管理運営経費計画

提案書においては、近年の著しい賃金・物価高騰や労務単価の上昇等の影響により、指定管理料と利用料金収入のみでは管理運営経費を賄うことが厳しい状況と見込んでおり、自主事業の財源及び団体運営の財源として活用していた便益施設等の収益（駐車場の値上げも見込む）を指定管理事業に充当することで、管理運営経費を賄うこととしていました。

一方、令和 8 年度の指定管理料については、28 億 7,200 万円から、1 億 4,222 万円の減額となったため、横浜市と協議の上、サービス・委託料の調整を行います。

また、収入の確保と経費の節減等に以下のとおり取り組み、経営改善に努めます。

(1) 収入

自主事業の料金の見直しや一部有料化を行うほか、アニマルペアレント支援金等の増加や協賛企業への更なる支援を働きかけ、自主事業の財源を確保に努めます。新たに、動物園への新たな支援の形としてショッピングサイトのほしい物リストを活用し、多様なファンドレイジングに取り組めます。

収益事業では、キャッシュレス対応機導入に伴う自動販売機運営の見直し等により収益拡大を図り、自主事業の財源として活用します。また、年間パスポートの利用者や入園者数を増やすことで、入園料収入の増に努めます。

(2) 支出

質の高い動物園運営に必要な予算を確保するほか、電気や水道の適切なマネジメントや横

浜市と照明の LED 化を進め、光熱水費の節減に努めます。横浜市の方針に則り園内マップの配布の終了、傷病鳥獣受入れの金沢動物園への集約化を行うことで、効率的な運営を行うとともに、飼料をはじめとする物品調達については、共同発注による入札等により、経費節減を図ります。

横浜市動物園等の指定管理者の選定及び評価に関する要綱

制定 平成 24 年 4 月 1 日環創動第 1489 号（局長決裁）

改正 令和 6 年 3 月 18 日環創総第 987 号（局長決裁）

（趣旨）

第 1 条 この要綱は、横浜市動物園条例（昭和 63 年 3 月 31 日条例第 11 号。以下「条例」という）第 3 条の 2 第 5 項及び第 3 条の 4 に規定する、横浜市立よこはま動物園、横浜市立野毛山動物園及び野毛山公園（野毛山動物園を除く）、横浜市立金沢動物園及び金沢自然公園（金沢動物園を除く。）（以下「動物園等」という。）の指定管理者（以下「指定管理者」という。）の選定及び事業評価を公平かつ適正に行うための手続きを定めることを目的とする。

（選定）

第 2 条 市長は、指定管理者に応募したものの中から、指定管理者の選定を行うものとする。

2 市長は、条例第 6 条第 1 項に規定する横浜市動物園等指定管理者選定評価委員会（以下「委員会」という。）の意見を尊重して、選定を行わなければならない。

（選定基準）

第 3 条 指定管理者の選定にあたっては、次に掲げる事項を総合的に判断することとする。

- (1) 動物園等の管理運営を安定して行うことができる実績及び能力を有していること。
- (2) 動物園等の公共性、公平性、公正性を担保できること。
- (3) 動物園等利用者の利便性向上が図れること。
- (4) 地域と連携した動物園等の管理運営が図れること。
- (5) 動物園等の効率的な管理運営を行えること。

（申請書類）

第 4 条 指定管理者の指定を受けようとする者は、あらかじめ市長が定める期日までに、横浜市動物園条例施行規則（昭和 63 年 3 月 31 日規則第 51 号）及び別に公募要項に定める提出書類を、市長に提出しなければならない。

2 市長は、必要に応じて、前項の規定により提出を受けた書類の一部又は全部を委員会に提供する。

（選定の公表及び報告）

第 5 条 市長は、選定をしたときは、速やかに当該結果を応募団体に通知するとともに、その結果を公表する。

（評価）

第6条 市長は、指定管理者の管理状況について、事業評価を行うものとする。

2 指定管理者の事業評価は、みどり環境局職員によるもののほか、委員会によるものとする。

（評価基準）

第7条 指定管理者の事業評価にあたっては、別に定める評価基準に基づき実施する。

（評価の公表及び報告）

第8条 市長は、評価をしたときは、速やかに当該結果を指定管理者に通知するとともに、その結果を公表する。

附 則

（施行期日）

1 この要綱は、平成24年4月1日から施行する。

2 この要綱は、令和6年4月1日から施行する。

（要綱の廃止）

3 横浜市動物園等の指定管理者の選定及び評価に関する要綱（平成23年11月24日環創動第912号）は廃止する。

横浜市動物園等指定管理者選定評価委員会運営要綱

制定 平成 24 年 4 月 1 日環創動第 1489 号（局長決裁）

改正 令和 6 年 3 月 18 日環創総第 987 号（局長決裁）

（趣旨）

第 1 条 この要綱は、横浜市動物園条例第 6 条第 3 項の規定に基づき、横浜市立よこはま動物園、横浜市立野毛山動物園及び野毛山公園（野毛山動物園を除く）、横浜市立金沢動物園及び金沢自然公園（金沢動物園を除く）（以下「動物園等」という。）の指定管理者（以下「指定管理者」という。）の選定及び事業評価を公平かつ適正に行うため、横浜市動物園等指定管理者選定評価委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営について必要な事項を定める。

（担当事務）

第 2 条 委員会は、横浜市動物園等の指定管理者の選定（以下「選定」という。）、動物園等の管理の業務に係る評価（以下「評価」という。）等に関し、次の事項について調査審議し、市長に意見を述べる。

- (1) 選定手続きの細目
- (2) 選定基準
- (3) 公募要綱又は審査要綱
- (4) 選定及び次点候補者（指定管理者として指定できない事情がある場合において、代わって指定管理者となるべき者をいう。以下同じ。）
- (5) 評価基準
- (6) 評価の決定
- (7) 指定管理者の指定の取消し
- (8) その他市長が選定、評価等について必要と認める事項

（委員）

第 3 条 委員は、次に掲げる者のうちから市長が任命する。

- (1) 動物園等の管理運営に関し専門性を有する学識経験者
- (2) 他都市において動物園等の管理運営の実務経験を有する者
- (3) 団体の財務状況の審査が可能な者
- (4) その他市長が必要と認める者

2 委員に、委員としてふさわしくない非行事由があったと市長が認める場合は、市長はその職を解くものとする。

3 委員の氏名及び役職等は公募要綱等に記載する。

4 委員の代理は認めないものとする。

（委員の責務）

第4条 委員は、第2条に定める職務を常に公正、公平に行わなければならない。

2 委員は、直接間接を問わず、応募団体及び応募することが見込まれる団体の関係者と、選定に関して接触してはならない。

3 委員は、委員会を通じて知り得た情報をその職を退いた後も洩らしてはならない。ただし、横浜市及び委員会が公表した情報については、この限りではない。

4 前項の規定は、委員会に出席した者（委員及び会議が公開されている場合における傍聴者等を除く。）について準用する。

（委員の任期）

第5条 委員の任期は、2年間とする。ただし、特別の事情があると認められる場合これを1年とすることができる。

2 委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

3 委員は再任されることができる。

（委員長）

第6条 委員会に委員長を置き、委員の互選により定める。

2 委員長は、委員会を代表し、会務を総理する。

3 委員長に事故あるとき、又は委員長が欠けたときは、あらかじめ委員長の指名する委員がその職務を代理する。

（会議）

第7条 委員会の会議は、委員長が招集する。ただし、委員の任期が満了した後、前条第1項の規定により委員長を定めるまでの間は、市長が召集する。

2 委員長は、委員会の会議の議長となる。

3 委員会は、委員の半数以上の出席がなければ、会議を開くことができない。

4 委員会の会議の議事は、出席委員（議長を除く。）の過半数をもって決し、可否同数の場合は、議長の決するところによる。

5 委員長は、委員会において必要があると認めるときは、会議に関係者の出席を求め、その意見若しくは又は説明を聴き、又は関係者から資料の提出を求めることができる。

（会議の公開等）

第8条 横浜市の保有する情報の公開に関する条例（平成12年2月横浜市条例第1号）

第31条の規定に基づき、委員会の会議は公開するものとする。ただし、同条ただし書に該当する場合は、委員会の決定により非公開とすることができる。

（報告）

第9条 委員会は、選定（次点候補者の決定を含む。）、評価の決定等を行ったときは、速やかに当該結果を市長に報告する。

(庶務)

第 10 条 委員会の庶務は、みどり環境局公園緑地部動物園課において処理する。

(委任)

第 11 条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に必要な事項は、委員長が委員会に諮って定めるものとする。

附 則

(施行期日)

- 1 この要綱は、平成 24 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 この要綱は、令和 6 年 4 月 1 日から施行する。

(要綱の廃止)

- 3 横浜市動物園等指定管理者選定評価委員会要綱（平成 23 年 11 月 24 日環創動第 912 号）は廃止する。
- 4 この要綱の施行後最初に開催する委員会は、第 7 条第 1 項本文の規定にかかわらず、市長が召集する。

令和 8、9 年度選定評価委員 名簿

敬称略

氏名	分野・専門	所属等
佐渡友 陽一	博物館学（動物園）	帝京科学大学 アニマルサイエンス学科 准教授 市民ZOOネットワーク 代表理事
藤崎 晴彦	経営学（経営戦略・システム） 会計学	横浜市立大学 国際商学部 准教授
儀賀 良之	経営・財務	税理士法人さくら共同会計事務所 代表税理士 公認会計士
坂東 元	動物園運営 飼育技術、安全衛生管理等	旭川市立旭山動物園 統括園長
町田 怜子	地域環境論、観光計画学、 環境アセスメント論、環境教育学	東京農業大学地域環境科学部地域創成科学科 教授
有馬 貴之	観光地理学、観光政策論、観光経営学	横浜市立大学国際教養学部都市社会文化研究科 准教授